

令和7年度 学力向上プログラム推進事業

「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」推進校

令和7年度

# 研究のまとめ

かほく市立高松中学校

## 1 研究主題

### 自ら学び 高め合う生徒の育成 ～ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通して ～

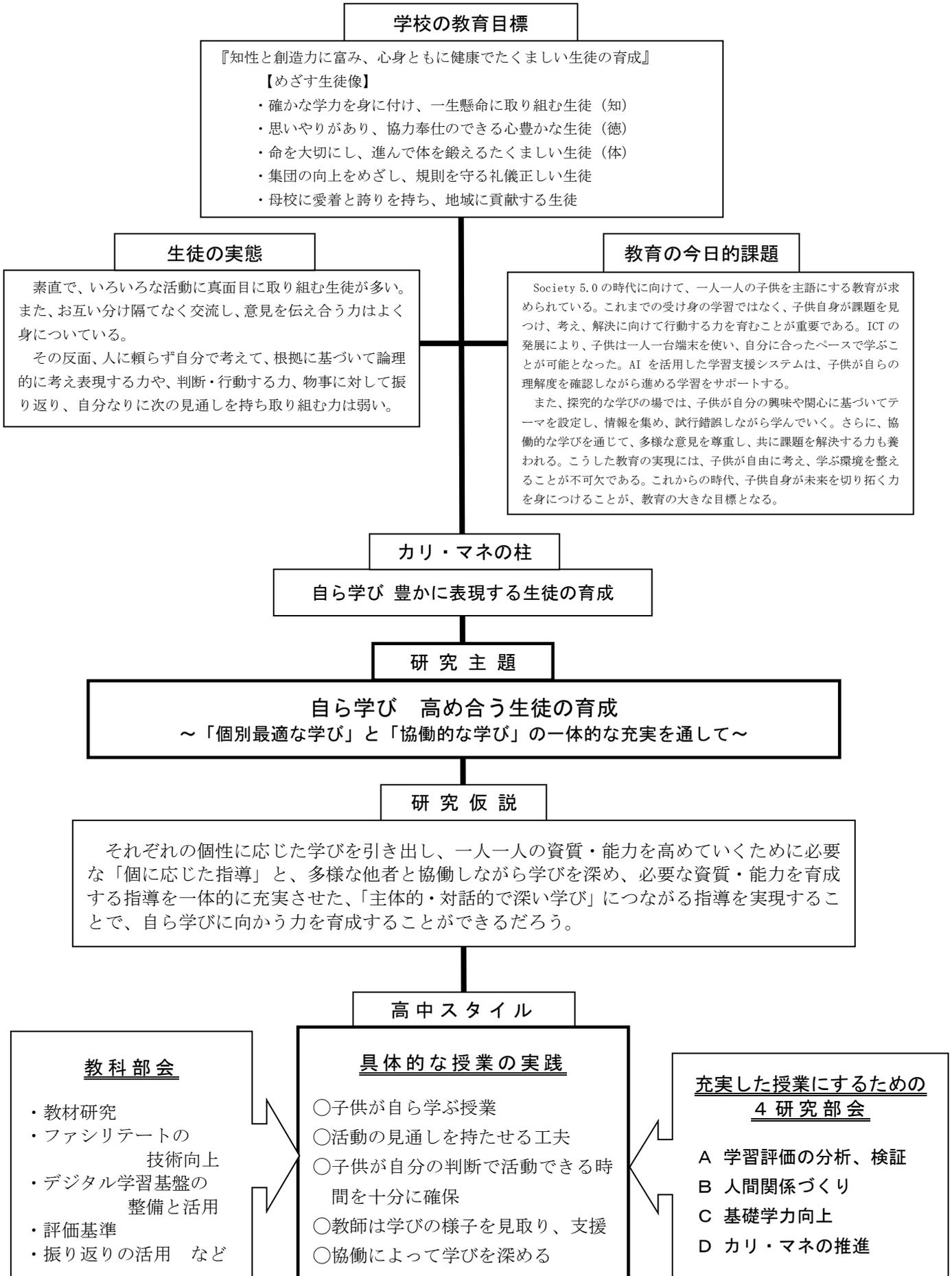
## 2 主題設定の理由

本校のカリ・マネの柱（＝教育目標を、資質能力を育成する日々の教育活動に活用できる見方でとらえ直したもの）は、「自ら学び 豊かに表現する生徒の育成」である。この中でも本校は、授業において「生徒が自ら学ぶ」ところを中心に研究を進める。

本校の生徒は、素直で、いろいろな活動に真面目に取り組む生徒が多い。また、お互い分け隔てなく交流し、意見を伝え合う力はよく身につけている。その反面、人に頼らず自分で考えて、根拠に基づいて論理的に考え表現する力や、判断・行動する力、物事に対して振り返って自分なりに次の見通しを持ち取り組む力は弱い。

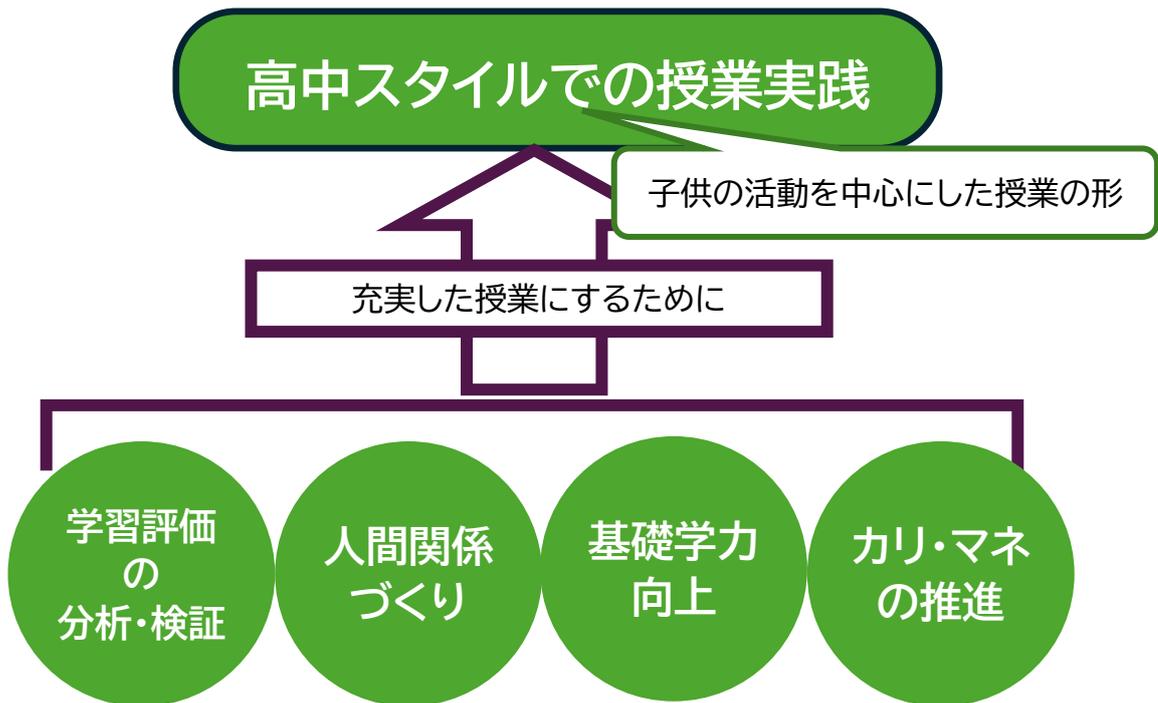
私たちは、一人一人の子供を主語にする教育をより推進していきたいと考えた。そのためには、それぞれの個性に応じた学びを引き出し、一人一人の資質・能力を高めていくために必要な「個に応じた指導」と、他者と協働しながら学びを深め、必要な資質・能力を育成する指導を一体的に充実させることが必要不可欠である。生徒が「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた「主体的・対話的で深い学び」を実現することで、自ら学び高め合う姿になっていくことを目指し、この研究主題を設定した。

### 3 研究の全体構想

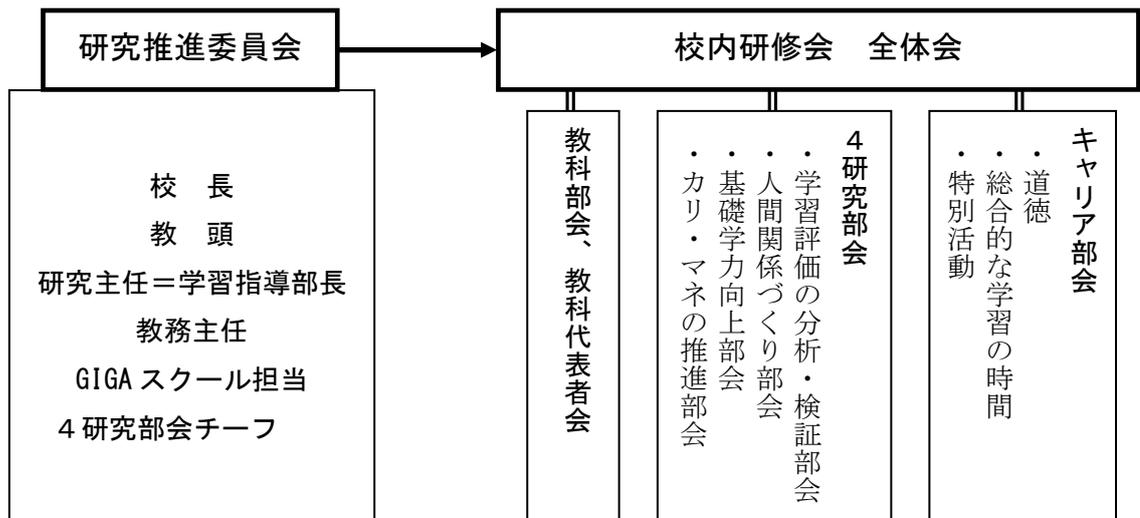


## 4 研究内容

子供が自ら学ぶ授業にするために、子供が自分の判断で活動できる時間を十分に確保し、教師は学びの様子を見取り、支援する授業の形を示した。この形を「高中スタイル」とする。高中スタイルでの授業がより充実したものにするには、「A. 学習評価の分析、検証」「B. 人間関係づくり」「C. 基礎学力向上」「D. カリキュラム・マネジメントの推進」が特に必要だと考えた。そこで、この4つそれぞれに重点的に取り組む部会を作り、学校全体で研究を進めていく体制を作った。



## 5 研究組織



研究推進委員会【校長、教頭、◎福島、渡邊、政近、山本美、猪股】

係	業務内容	福島	渡邊	政近	山本美	猪股	教頭
学 校 研 究	学校研究全体計画立案と推進 校内研究会、研究推進委員会運営 各種会議への参加、各種報告 指導主事訪問の準備 指導案の形式の提案	◎	○				
	学年・学級経営案のとりまとめ	◎					
研 修	研修計画と推進、県外研修計画	◎					○
	ミニ研修会（若プロ）	○	◎				○
4 研究 部 会	A 学習評価の分析、検証部会	○		◎			
	B 人間関係づくり部会	○			◎		
	C 基礎学力の向上部会	○				◎	
	D カリキュラム・マネジメントの推進部会	○	◎				
教 科 指 導	学力調査・授業アンケートの分析と取組	◎	○	○	○	○	
GIGA ス ク ー ル 構 想	1人1台端末の効果的な活用	○		◎			
	GIGA 校内研修推進	○		◎			

### 4 研究部会（すべての教員）

- A 学習評価（教師の見取りを含む）の分析、検証 ◎政近、清水、地藤、安原、石垣
- B 人間関係づくり（学習指導と生徒指導の一体化）◎山本美、櫻井、糀元、水牧、永山
- C 基礎学力の向上 ◎猪股、北村、瀧本、上谷、高名、山本佳
- D カリキュラム・マネジメントの推進 ◎渡邊、上谷、糀元、安原

※研究推進委員会は、学習指導部会としての会議も併せ持ち、週一回行うものとする。

※研究推進委員会からの提案は、校内研究会の全体会（必要ならば職員会議も）を通し、共通理解を図る。  
その後、教科部会や4部会、キャリア部会、必要なら学年会、分掌部会で具体的な話し合い、実践を行う。

6 研究の経過（校内研修会、教科部会、職員会議は学校研究に関わるものを掲載）

○ 1学期

4月 3日（木）	<b>校内研修会①</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校研究の共通理解</li> <li>－カリ・マネの柱について</li> <li>－高中スタイルについて</li> </ul>
4月 9日（水）	<b>「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」</b> <b>第1回推進校連絡協議会</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の概要説明</li> <li>・協議「組織的に研究を推進するための取組」</li> </ul>
4月 9日（水）	<b>校内研修会②</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・演習「学校教育における well-being の学びのデザイン」</li> <li>・講師 金沢工業大学基礎教育部 平 真由子 准教授</li> </ul>
4月 15日（火）	<b>学習集会</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら進んで学ぶ力について</li> <li>・高中スタイルの具体例</li> <li>・高中スタイルで大切にすること</li> </ul>
5月 7日（水）	<b>校内研修会③</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4研究部会</li> <li>－本年度の取組みについての提案</li> </ul>
5月 19日（月）	<b>校内研修会④</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主任による提案授業</li> <li>－2年理科「電流の性質」</li> <li>－授業整理会</li> <li>－指導・助言者 金沢教育事務所 小橋 昌明 指導課長 金沢教育事務所 本崎 弥 指導主事</li> </ul>
6月 2日（月）	<b>校内研修会⑤</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・演習「探究学習とは」</li> <li>・講師 金沢大学附属コラボレーション推進室 福田 晃 氏</li> </ul>
6月 4日（水）	<b>校内研修会⑥</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4研究部会</li> <li>－取組の具体的な提案と進捗状況の確認</li> <li>・全体会</li> <li>－4研究部会の報告と取組の周知</li> <li>・教科部会</li> <li>－セット訪問の日時、内容の検討</li> <li>－11月の学校訪問及び公開研究会での授業について</li> <li>－1学期中に高中スタイルで行う授業の確認</li> </ul>
5月～7月	<b>セット訪問</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽科</li> <li>－指導案検討 [5月26日（月）]、研究授業・整理会 [6月19日（木）]</li> <li>・英語科</li> <li>－指導案検討 [7月 7日（月）]、研究授業・整理会 [7月18日（金）]</li> </ul>

○ 夏季休業中

7月25日（金）	<b>職員会議</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高中スタイルでの指導案様式の変更 <ul style="list-style-type: none"> <li>－ 「導入・深化・自覚化」を「step1・step2・step3」へ</li> <li>－ 「C→B への手立て」について</li> </ul> </li> <li>・ 2学期以降の高中スタイルでの授業シート例の提示</li> </ul>
7月28日（月）	<b>校内研修会⑦</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4研究部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>－ 1学期の取組についての振り返りと分析</li> <li>－ 1学期のアンケート分析</li> <li>－ 2学期からの取組のアイデア</li> </ul> </li> <li>・ 教科部会 <ul style="list-style-type: none"> <li>－ 1学期の授業の振り返りと2学期に向けての確認</li> <li>－ 要請訪問の指導案検討</li> <li>－ 学校訪問及び公開研究会の公開授業について</li> </ul> </li> </ul>
7月30日（水）	<b>校内研修会⑧</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義・演習「マイアセスの活用」</li> <li>・ 講師 東京書籍北陸支社 吉本 氏・西村 氏</li> </ul>
8月25日（月）	<b>高松中学校区 小中連携協議会</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体会 <ul style="list-style-type: none"> <li>－ 「子供に委ねる授業」の実践発表（3校研究主任による）</li> </ul> </li> <li>・ 教科別分科会</li> </ul>
8月26日（火）	<b>「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」 第2回推進校連絡協議会</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推進校1学期の取組について報告</li> <li>・ 協議「学力向上に向けた授業づくり」に基づいた学校研究を全職員で、推進していくための手立てと工夫」</li> </ul>
8月28日（木）	<b>校内研修会⑨</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義・演習「メタ認知と自己調整学習」</li> <li>・ 講師 金沢工業大学メディア情報学部 教授 田中 孝治 氏</li> </ul>
夏季休業中	<b>セット訪問</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会科 指導案検討 [8月 1日（金）]</li> <li>・ 理科 指導案検討 [8月 18日（月）]</li> <li>・ 数学科 指導案検討 [8月 21日（木）]</li> </ul>

○ 2学期

9月 3日 (水)	<b>校内研修会⑩</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4研究部会                – 2学期からの具体的な取組</li> <li>・ 全体会                – 4研究部会の2学期からの取組を共有</li> </ul>
10月 10日 (金)	<b>学力向上フォーラム</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」研究概要を                研究主任が説明</li> </ul>
9月～10月	<b>セット訪問</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会科 研究授業・整理会 [9月 4日 (木)]</li> <li>・ 国語科、理 科 研究授業・整理会 [9月 10日 (水)]</li> <li>・ 数学科 研究授業・整理会 [10月 9日 (木)]</li> </ul>
11月 1日 (土)	<b>県外視察①</b> 視察者：山本 美幸 教諭 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大阪教育大学 平野地区 五校園共同研究発表会                – 共同研究主題「新しい社会を創造する子ども一人一人の育成                をめざした教育課程の実施と教育評価 ～主体性が働く課題                設定能力の育成と学習評価のモデル開発～」</li> </ul>
11月 7日 (金)	<b>公開研究会参加①</b> 参加者：猪股 啓子、安原 広樹 教諭 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加賀市立山代中学校                – 研究主題「主体的・対話的で深い学びを迫及する生徒の育成 ～                付けたい力を身につけるために自律的に学べる授業構想～」</li> </ul>
11月 14日 (金)	<b>公開研究会参加②</b> 参加者：福島 栄一、上谷 由喜、櫻井 千明 教諭 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 石川県立金沢錦丘中学校                – 研究主題「自律的に学ぶ生徒の育成 ～生徒が自己有用感を感じ                られる授業づくりを通して～」</li> </ul>
11月 21日 (金)	<b>「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」研究発表会</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体会 (多目的ホール)                – 挨拶 井上 勝文 かほく市教育委員会 教育長                – 挨拶 中條 隆文 石川県教育委員会 金沢教育事務所 所長                – 研究概要説明 福島 栄一 研究主任                – 挨拶 塚田 秀和 校長</li> <li>・ 公開授業 <span style="float: right;">※ 巻末資料3参照</span></li> </ul>
12月 26日 (金)	<b>校内研修会⑪</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科部会                – 資質能力育成シートの作成                – 本年度の研究のまとめを作成①</li> </ul>

○ 3学期

1月21日(水)	<b>校内研修会⑫</b> ・教科部会 ー年間指導計画の見直し ー本年度の研究のまとめを作成②
1月26日(月)	<b>県外視察②</b> 視察者：安原 広樹 教諭 ・足立区立第十二中学校 ー研究主題「ICTを活用した主体的・協働的に学ぶ生徒を育成するための授業改善」
1月27日(火)	<b>県外視察③</b> 視察者：安原 広樹 教諭 ・群馬県吉岡町立吉岡中学校 ー研修主題「子供を主語にした授業づくり ～HiBALIプラン5.0に視点を当てた授業を目指して～」
2月4日(水)	<b>公開研究会参加③</b> 参加者：塚田 秀和 校長 ・能美市立寺井中学校 ー研究主題「新しい時代に必要となる資質・能力を育む単元構想の工夫 ～深い学びを実現する授業を目指して～」 ・講演「デジタル学習基盤がもたらす授業改善のネクストステージ～生成AIとの対話で引き出す高次の資質・能力と深い学び～」 ・講師 東京学芸大学教育学部 高橋 純 教授
2月19日(木)	<b>校内研修会⑬</b> ・講演「生徒の自主性を育てる ～ファシリテーションの視点も～」 ・講師 本校スクールカウンセラー 古市 俊郎 氏
2月20日(金)	<b>校内研修会⑭</b> ・4研究部会 ー来年度の方向性・取組及び検証方法
3月3日(火)	<b>「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」          第3回推進校連絡協議会</b> ・推進校の今年度の振り返りと次年度の方向性 ・協議「取組の成果をよりよく評価するための工夫と評価項目について」
3月4日(水)	<b>校内研修会⑮</b> ・研究主任による提案授業 ー1年理科「火をふく大地」 ・講演「複線型授業の授業構想と生徒の見取り」 ・講師 東京学芸大学教育学部 高橋 純 教授

※ 年間を通して、毎週金曜日4限に研究推進委員会を設定

## 7 4 研究部会の実践

### (1) A 学習評価（教師の見取りを含む）の分析、検証 研究部

#### ① 実践内容

- ・生徒の書いた授業の振り返りの内容について3段階評価（ABC）を行う。・・・①
- ・振り返りの文字数を集計・・・②
- ・生徒の授業アンケートと①、②、成績について、それぞれクロス集計を行う。

#### [ 集計結果 ]

- ①授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。
- ②授業では、他の人の考えや意見を自分の学びに生かしている。
- ③振り返りでは、自分の学び方を見つめなおし、次に生かしている

縦：文字数、横：アンケート	1年生					2年生					3年生					全体				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
文字数とアンケート①	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	1	1	0	0
文字数とアンケート②	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	1	1	0	0
文字数とアンケート③	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	1	1	0	0

#### [ 各教科振り返りシート ]

日付	今日の授業の振り返り	自己評価
○月○日(○)	観点は「学び方」とします。 ※指示がある場合を除く ★自分の学び方は学びの広がりや深まりに繋がりましたか★	今日の自分の「チャレンジ with 高評価」をA・B・C
4月11日(金)	100字程度 ※四行目に1字は入る ★原則、学び方について振り返る★	ここに選択
4月24日(木)	今日は、たまたま漢字やタブレットを活用しながら、しっかり作文を書くことができたので良かったです。けど、次の数が増えたり授業の進め方が少し違う部分もあったのでもっと言葉の意味を調べたり、次の繋がりをしっかり復習してもっと良い作文を作れるようにしたいです。	A
4月30日(水)	今日は、時間内に心情曲線の文章を書くことができませんでした。なので書き切りたいと思います。そして次の時間では友達と考えた心情曲線を見てどうしてそう思ったのかを質問できるようにしたいです。	A
5月1日(木)	今日は、グループでよく話し合っ、れんがなぜ前向きになったのかをしっかりとって考えてまとめることができたので良かったです。次、発表するときにはみんなにできるだけわかるように話したいです。けど、もっと話を弾ませれるように普段から努力しようと思います。	A
5月2日(金)	今日は、発表で自分なりにしっかり発表できたので良かったです。次は、発表をしながらも聞くときに他のグループの意見をまともめられるようにしたいと思っています。これを他の授業の発表などで活用したいです。	A
5月8日(木)	今日は、話を聞いて、しっかり伝えたい部分を書きながらそれを整理して言うことができたので良かったです。友達に聞いてもらったときにも「隣のところが上手い」と言われ少しうれしかったです。次、物語の学習では今日、意識したことを活用しながら普段より上手いようにしたいです。	A
5月9日(金)	今日は、相手のことを取材し、もっと詳しくやすいような空想を作れるようにしたいです。取材しているときに相手の大切にしていることを一つ、聞いてからそのまま静かになってしまえばいいからあまり話を深掘りするのでもできませんでした。次は、もっとよく質問できるようにしたいと思っています。	B

目標	学び方について、振り返りを書きましょう。
106	自分紹介の仕方が分からなかった、先生のスライドを何度も見直し、友達から発表を教えてもらった。動画を観ても何度も見直した。質問の仕方も理解できた。発表だけでなく、イントロや話し方も大事だと気づいた。教科書にのっていない事も見せるようにしたい。質疑の準備は、準備ではなく文章で読むようにしたい。
109	教科書を見てあまりコインのところがわからなかった。教科書に出てきた原野や原野光や原野角などのことがコインのことについての言葉が書いてあるから次はどうしてそうなるかを考えたいです。理解できるようにしたいです。
111	わからないことや理由を聞きたいときは、友達や班の人たちに聞いたり、教科書を見てみたりして自分なりに考えることができました。完全に理解できた実験とあまり理解できていない実験があるので、しっかり理解できるようにしたいです。
122	光の進み方や曲がり方が水に入っていない光が水に入っている光の2倍になっていることが分かりました。分からないところは友だちに聞いたりで少し納得することができました。次は教科書を使ってよりよく自分でわかるようにしたいです。
134	提出ボックスを見て参考にしたり、教科書を見たりして、自分の言葉で書くことができました。2番と3番が教科書を見てあまりわからなかったし、書けただけで自分ではあまり説明できないので、提出ボックスを見て、分る人にも聞いてみたいと思います。
136	私は、今までなんの疑問もなく通っていたけれど、よく考えれば、水の反射の仕方もよくわからなかったし、どんな法則があるのかもわからなかった。もっと友達に聞いてきたりすればよかったと思いました。教科書で調べたり、近くの友達と話し合うことはできると、続けたいです。
137	なんとなく、コインがなぜ見えるようになったのかを、なんで水の中では光は曲がるのか、知ることができたり、日常生活では疑問に思わなかったことが解決できてよかった。水の中に入れたるがなぜ曲がるのかまた次の時間を知りたいです。
138	友達と一緒に実験してみたり、わからないところは聞いてみたりしてなんでそんな見え方になるのかを聞いてみたいと思いました。はしりやはまだわからないから理解できるようにしたいと思いましたが、コインのやつもまだなんとなくわからなかったからちゃんと説明できるようにしたいです。
140	水の中の見え方を見ることができたり、友達と実際にやってみてわからないところは聞くことができたので良かったです。ストローのやつとコインのやつがわからなかった、後でちゃんと理解できるようにしたいです。

今日の学習内容	四角の概念や性質について、根拠となることからもとに筋立てて説明できるようにする。 平行線と折れ線の角の大きさの求め方を考え、図にかき加えた線や、根拠となる図形の性質を明らかにして説明する。
例	目標 振り返りを書きましょう。 学び方の振り返り 教科書や黒板の解き方を確認したり、周りの人に聞いたりすることで、一つの解き方だけでなくさまざまな解き方を知ることができた。その中で、効率よく解く方法を考えることができた。
できた	分かったこと・分らなかったこと 1年のときに学習した分配法則や等式の性質を利用することで、2年の問題も解くことができた。今まで学習したことを利用することが大切であることが分かった。
できた	みんなのカードを見ているんな考え方があるんだなと思いました。いろんな性質を正しく使うと簡単に導き出せるんだと知りました。
できた	最初は自分で解いていたが、④が少しわからなかったから、何人かで一緒に考えた。凹形四角形の角は隣の角の和に等しいことがわかった。これからは使っていきたいです。
できた	わからないところはわかった友達に教えてもらいながら角の大きさを求めたのが良かったです。また、性質を確認しながらできました。次は自分で解けるようにしたいです。
できた	角の大きさは補助線を引いて今までの図形の性質を利用すれば、解けると分かりました。

## ② 成果及び課題・改善策

- ・教師の視点から、振り返り内容が高評価や文章量が充分であると、生徒のアンケートでも良い評価を得られている割合が高い。このことから、委ねられたことで主体的に取り組み、振り返りをしっかりと書けたと考えられ、自ら学ぶ意識が育成された。
- ・成績によらず生徒のアンケートの評価が良い。このことから、難しいことにも高中スタイルで学ぶことで、あきらめずに取り組もう・取り組めたと感じていると考えられ、自己調整を意識するようになった。

## (2) B 人間関係づくり（学習指導と生徒指導の一体化） 研究部

### ① 実践内容

- ・教師と生徒の人間関係がより良いものとなるよう、「教師と生徒の人間関係作り振り返りシート」を作成した。「自己存在感の感受」に関わるもの4項目、「共感的な人間関係の育成」に関わるもの4項目、「自己決定の場の提供」に関わるもの5項目、「安心・安全な風土の醸成」に関わるもの5項目からなっている。週案に綴り、普段から意識できるようにした。またこのシートの項目について学期の終わりにアンケートを行い、関係づくりを見直すきっかけとした。
- ・生徒同士の人間関係がより良いものとなるよう、参考になる実践の情報収集、共有を行った。特設のエンカウンターだけでなく、ホームルーム時や授業内でのちょっとした取り組みで、好き嫌いなく様々な生徒と関わりを持てるような実践を集め、校内研究会で共有した。

### ② 成果及び課題・改善策

- ・「教師と生徒の人間関係作り振り返りシート」を用いた、教師と生徒の人間関係づくりでは、教師の意識に、より良い関係を築こうとする様子がみられた。特に「生徒が活躍したり役割を果たすなど、自己有用感を感じる場を設けている」「生徒の活動状況を見取り、個に応じた支援を行うことでどの生徒も主体的に活動できるように支援している」の項目で、上昇がみられた。2学期にはアンケートの項目に具体的実践を記入してもらうことで、実践の共有を素早く行うことができた。
- ・生徒同士の人間関係づくりでは、参考になる実践を共有する中で、2つの有効な手立てが見えてきた。一つは教師主導で、様々なペアやグループで活動する場を設けることである。好き嫌いに関わらず、いろいろな生徒と関わることで、抵抗感を少なくし、学級全体として親和的な雰囲気育てていきたいと考えている。もう一つは、協働的な学習場面で、活動の目的を説明し、その目的に沿った学習ができるよう、生徒間をつなげるなど教師がファシリテートすることである。現状では、仲の良い者同士が集まりやすい傾向はまだあり、教師がファシリテートする力もこれから向上させていきたいと考えている。

### (3) C 基礎学力の向上 研究部

#### ① 実践内容

##### ア) テスト計画表の見直し

- ・テスト勉強での学習内容をリストアップし、毎日の計画表に振り分ける。(図1)
- ・振り返りで、「やってよかった学習法」「改善すべきところ」を記入し、次テストの計画作成時に活かす。
- ・「やってよかった学習法」の良い学習法を、クラスの生徒に紹介する。

##### イ) 小テストに向けての学習の取組

- ・毎週木曜日に行われている小テスト（5教科）の範囲を1週間前に周知し、学習環境を整える。
- ・満点の生徒氏名を掲示し、連続満点者を色分けして表示する。学期ごとに優秀者を表彰することで意識を高める。

##### ウ) 計画的な家庭学習への取組

- ・帰宅後の目標学習時間を各学年で確認する。帰りHR時に生活ノートに、「学習開始予定時刻」「学習予定時間」を記入するよう促し、学習後評価を記入する。(図2)
- ・授業の学習予定と課題内容をクラスルームにアップし、クラス全員に周知する。

##### エ) 朝学習の取組

- ・3年生・・・受験に向けての学習
- ・2年生・・・基礎的な学習（月曜日…国語、火曜日…数学、金曜日…英語）

国語	社会	数学	理科	英語
①テスト範囲のワークの間違えた問題を自ノートに書き直す ②テスト範囲の漢字を自ノートに10回ずつ書く	①歴史の範囲のワークを2回解く ②歴史の漢字を自ノートにまとめる	①テスト範囲のワークの間違えた問題を自ノートに2回解く ②教科書の問題を自ノートに書き直す	①理科の範囲のワークを終わらせる(1日3ページ) ②テスト範囲のワークを自ノートに2回解く ③重要語句を自ノートにまとめる	①テスト範囲の単語を自ノートに10回ずつ書く ②教科書の本文を5回音読する
①範囲のワーク・単元プリントを終わらせる ②出たワークは問題を確認する ③漢字練習	①範囲のワーク・単元プリントを終わらせる ②社会ワークを2回解く ③重要単語を確認する ④漢字ミス	①範囲のワーク・単元プリントを終わらせる ②教科書の問題を自ノートに書き直す ③もう一回やる	①範囲のワーク・単元プリントを終わらせる ②2回目ワークの予習 ③大テスト問題	①範囲のワーク・単元プリントを終わらせる ②単語を2回書く ③大テスト問題

[ 図1 テスト計画表 ]

前日の就寝 11:00	起床 6:00	家庭学習 17:00~	時間
前日の就寝 11:00	起床 6:00	家庭学習 17:00~	時間
前日の就寝 23:00	起床 6:00	家庭学習 20:00~	時間
前日の就寝 1:30	起床 9:00	家庭学習 20:00~	時間

[ 図2 生活ノート ]

#### ② 成果及び課題・改善策

- ・アンケート結果から「自分で計画を立てて家庭学習している」「計画に沿って学習を進めることができた」「計画内容を修正したり、工夫したりして学習することができた」の項目が、1・2年は肯定的回答が若干減少したが、2年は「できた」と言い切った生徒が増加した。学習に対して意識が高い生徒は、さらに意識を向上させて学習に取り組んでいると思われる。意識の高い生徒と低い生徒の2極化が進んでいるとも思われるため、日頃から計画的に学習を進める意識づけをつけ

ていく必要がある。

- ・今年度は基礎学力の向上を家庭での学習を中心に実践したが、授業の中でも基礎学力を向上させる実践が必要であると思われる。生徒にゆだねる授業を取り入れながら、基礎学力を確実に身につける授業も工夫していく必要がある。



## 8 各教科の実践

### (1) 国語科

#### ① 学校訪問・要請訪問の授業整理会より

- ・「委ねる」ことは目的ではなく、手段である。
- ・身に付けさせたい教科の資質・能力を生徒が発揮できるような適切な言語活動を教師が設定することが必要である。
- ・生徒は情報環境があれば自走するわけではない。どのように利用するかまで教師が具体的に指導を続けることが必要である。

#### ② 教科の見方・考え方を踏まえて子供に委ねる工夫の実践例

- ・公開研究発表会で行った2年「適切な根拠を選んで書こう」の授業では、教科の資質・能力の育成を念頭におき、説得力のある文章を書くために、根拠の吟味と根拠・理由付け・意見の整合性という教科の見方を踏まえさせながら、生徒に委ねた。生徒は学び方（学ぶ時間・学ぶ材料・学ぶ相手等）を主体的に判断しながら、自分に最適だと考える学習を進めていた。一定の成果を得られたのは、身に付ける資質・能力とそのための単元計画を生徒が主体的に把握し、学習の進捗状況をメタ認知しながら、学びを持続できたことが大きいと捉える。
- ・要請訪問で行った1年「蓬萊の玉の枝ー『竹取物語』から」の授業では、教科の資質・能力の育成を念頭におき、自分の考えを確かにして書かせるために、国語科としての視点を生徒に持たせた上で学び方を委ねているところが効果的だった。

#### ③ 高中スタイルで取り組んだ成果及び課題・改善策

##### (成果)

- ・教師が単元デザインを総合的かつ具体的に描き、それを生徒と単元の冒頭に共有することによって、生徒が単元の目標（身に付ける資質・能力）や学習計画を把握することができ、主体的な学びにつながったり、生徒が学習を楽しく行っていると実感することにつながったりした。
- ・学力が中位の生徒同士が協働的に学ぶことによって、求める教科の資質・能力を高めることができた。
- ・教師が、学力が低位の生徒への焦点化した指導を行うことによって、生徒のつまずきの正確な実態把握につながり、求める教科の資質・能力を高めることができた。

##### (課題・改善策)

- ・生徒全員が求める教科の資質・能力の獲得（＝成功体験）を達成できなかったので、単元全体を見通した、その都度の適切な手立てを講じれば改善につながる。
- ・生徒が日頃の人間関係で協働的に学ぶ級友を選んでいたため学びが深まらなかったため、学習活動の目的を明確化したり、教科の見方・考え方を具体的に示したり、生徒に委ねる場面を細分化し条件を付与したりすることで、改善につながる。
- ・生徒のふり返りを有効活用できなかったため生徒の自己有用感の高まりにつなが

らなかったのに、毎時授業の初めに前時のふり返りの中で本時の学びに有効なものを紹介すると改善につながる。

## (2) 社会科

### ① 学校訪問・要請訪問の授業整理会より

- ・活動をさせる際に、いくつか視点を与えると広がり生まれる。  
(例：消費シミュレーション 消費が生産を促すという視点/貯蓄の必要性)
- ・高中スタイルで生徒にテーマを決めさせる場合、決めたテーマが教科の学びから外れないように、教師が助言・修正する必要がある。

### ② 教科の見方・考え方を踏まえて子供に委ねる工夫の実践例

- ・国民の政治参加を促すためにどうすればいいかを発表する際に、どのような発表形式がよいか自分で選択させた。(3年生 公民的分野)
- ・江戸時代に、暮らしやすかった身分を予想させ、同じ身分を選んだ人同士で協働して調べ学習をさせた。(2年生 歴史的分野)
- ・世界の諸地域の学習で、興味を持った州を1つ選択させ、自分でテーマを決めて調べ学習から発表まで行わせた。(1年生 地理的分野)

### ③ 高中スタイルで取り組んだ成果及び課題・改善策

#### (成果)

- ・生徒の主体性が高まった。
- ・生徒が、自分で次にやりたいことを考えられるようになった。

#### (課題・改善策)

- ・どれだけ準備をしても、当日の授業の反応がその時になってみないと分からないので、その場その場での対応に迫られる。
- ・特に中～下位層の生徒に対して、知識の保証が難しい。
- ・学校の授業では学び方を学ぶ、家庭学習では知識を定着させる、というように住み分けをする。

## (3) 数学科

### ① 学校訪問・要請訪問の授業整理会より

- ・生徒の誤答をとりあげたり、まとめを自分の言葉で書かせたりすることで、数学的な見方・考え方の定着を図り、数学を利用することのよさを実感させられた。
- ・前時のつながりをいかした導入をすることで、生徒の課題に対する意識づけが強まった。
- ・適用問題をレベル別にすることで個に応じた学習を進めることができ、練習量を確保することができていた。困っている生徒には、他の生徒を頼る、そのような生徒を集めて教師が支援する、教え合うなどができていた。

- ・課題を解決する過程で、なぜそのように解くのか、求めることができるのかなど根拠となる性質を利用し、理由を理解させることが大切である。

## ② 教科の見方・考え方を踏まえて子供に委ねる工夫の実践例

- ・公開授業で実施した2年の「平行と合同」の星型多角形の角の和を求める授業で図形の性質を確認したあと、生徒がじっくり考える時間を多くとった。基本、標準、発展的な問題を3問考え、オクリンクプラスでそれぞれの求め方を映しながら問題を解き進めた。少なくとも標準の問題を解くことを目標にしており、発展的問題に関しては、解けた生徒に相談しながら解き進めていた生徒が多かった。
- ・3年「相似な図形」の平行線と比の性質を利用して考える問題で、学びの足跡を端末に蓄積しておくことで、生徒が既習事項をいつでも振り返り、活用しながら考えられるようにした。また、オクリンクプラスを活用して補助線等をかきこんだ図を共有し、生徒が考える際の手掛かりとしたり、交流相手を選ぶ参考としたりすることができるようにした。

## ③ 高中スタイルで取り組んだ成果及び課題・改善策

### (成果)

- ・生徒に委ねる場面を多く取り入れることにより、演習問題等の練習量を多く確保することができた。
- ・困っている生徒に教え合う雰囲気ができ、お互いに求め方を確認しあったり、自分の求め方を他の生徒に説明したりする場面が見られた。理解が難しい生徒には、基礎内容から教える場面もあった。

### (課題・改善策)

- ・数学は、問題を解ければよいというものでなく、なぜそのように求めることができるのかを根拠をもとに理解することが大切である。さらに様々な求め方を考えたり、その中でどの求め方が最適なのかを考えたりすることも大切である。生徒に委ねる場面を多く取り入れることで、そのようなことを深めたり、生徒の誤答を取り上げて間違いやすい内容を確認したりすることを全体に広げることが難しく、授業の進め方を工夫・改善する必要がある。
- ・学習内容を身につけるためには、練習量を多くとる必要がある。生徒の様々な考えを出しまとめた後で、よりよい解き方でたくさんの適応問題を解くのが望ましいと考える。そのためには、生徒に委ねる場面の途中で全体に、よりよい解き方を広め深める場面を取る必要があると思われる。学習や指導の内容によって、授業を柔軟に進める必要があると思われる。

#### (4) 理科

##### ① 学校訪問・要請訪問の授業整理会より

- ・生徒たちが自ら解決できるはずと思える場面を委ねていく。
- ・教科の見方・考え方を踏まえて、思考する場面を委ねていく。
- ・1時間でまとめきれないときには、無理にまとめるより次時につなげていけばよい。
- ・思考の根拠となる事実を確認できたり比較できたりする手立てがあるとよい。

##### ② 教科の見方・考え方を踏まえて子供に委ねる工夫の実践例

- ・一人一人の思考が見えて協働が生まれやすくなるようなシートを準備した。
- ・説明の時間をできるだけ短くすることや動画を使うことで委ねる時間を確保した。

##### ③ 高中スタイルで取り組んだ成果及び課題・改善策

###### (成果)

- ・班で実験を行うと特定の人が準備・実験をすることが多くなっていたが、これまで傍観者であった生徒が実験に取り組むようになった。
- ・新しくできたグループ内で話しながら進めるようになった。
- ・いままで内容が分からなくて授業内容に手を付けることができなかった生徒も、少し粘り強く取り組む姿が見られた。
- ・生徒がそれぞれの理解度に合わせて、自分の意見をまとめることができていた。

###### (課題・改善策)

- ・目的をもって集まるのではなく固定化したメンバーで集まってしまう。
- ・グループによっては協働が進まない。
- ・他のグループとの協働がなく、自分のグループの結果だけで課題に対する結論を出そうとしてしまう。
- ・「実験などは最初の班単位で行い、その中で解決できないときは必要に応じてほかの班の様子を見に行ってもよい」とするなどして、必要性がないままにグループを作るのではなく、躓いたときやわからないとき、深めたいときなどの必要性に応じて協働を取れるようにする。
- ・課題を工夫するなどして、協働が必要になるような課題を設定する。また、ほかの人の協働を通して、自分の考えがより良く洗練させるよう、取り組ませる。

## (5) 音楽科

### ① 学校訪問・要請訪問の授業整理会より

- ・鑑賞授業で、高中スタイルを取り入れられないか考え、行ってみた。単なる調べ学習になってしまい、面白くないと感じた。また、協働する場面もうまく組み込むことができなかった。鑑賞活動を通して、思考を深めていく授業デザインの工夫が大切である。
- ・オクリンクプラスを使っでの、自分が調べる項目についての意思表示場面を取り入れたことはよかった。また、それによって他者参照し、情報共有する工夫がなされておりよかった。
- ・学習途中での「何で？」という疑問を手掛かりに、調べ学習につながれると、必然性が生まれる。教師がねらいにもとづいた見取りをし、うまくファシリテートできるとよい。
- ・書籍の準備などもあり、環境面での準備がよかった。準備された資料等を使って、調べたい項目について、方法を選択し、情報収集する姿が見られた。音楽科の授業であるので、音を介して確かめるような展開があると一層よい。
- ・「思考・判断・表現」のところでも、高中スタイルの授業が展開できるのではないか。見取りの視点を音楽的な要素の「リズム・構成」などにして、知覚と感受が往還するような授業展開も考えられる。
- ・振り返りでは「学び方」を言語化する工夫が必要である。

### ② 教科の見方・考え方を踏まえて子供に委ねる工夫の実践例

- ・合唱コンクールに向けての取り組みでは、音楽的な見方・考え方（旋律、和音、構成、声部のバランス等）を働かせて課題意識を持たせ、生徒たち自身でパートリーダーを中心に、パート練習を進められるようにした。自分たちで合唱を作りあげようという意欲が高まった。
- ・音楽鑑賞の授業で学んだことを元に、自分が更に調べてみたいことについて、調べ、共有する時間を持ったことで、学習に広がりや深まりが見られた。
- ・リコーダーの学習では、既習曲の中から自分が取り組みたい曲を選び、音楽的な見方・考え方（フレーズ、速度、強弱等）を働かせて練習した。自分の能力に応じた選曲や速度の設定ができるので、練習への意欲が高まった。

### ③ 高中スタイルで取り組んだ成果及び課題・改善策

#### (成果)

- ・今年度は、合唱練習やリコーダーの練習、鑑賞の調べ学習場面のような「知識・技能」の力をつけたい場面で高中スタイルを取り入れた。これらは「個別最適な学び」につながり、意欲を喚起するのに効果的だった。

#### (課題・改善策)

- ・今後は「思考・判断・表現」にスポットを当てたような場面でも高中スタイルを取

り入れ、協働的な学びができるような授業展開を考えたい。

- ・授業の振り返りにおいて、「学び方」について自己評価できる力や、メタ認知の力をつけるための工夫をしたい。

## (6) 美術科

### ① 学校訪問・要請訪問の授業整理会より

- ・題材の設定や、ゴールを見通してやる気を持って生徒が取り組んでいる。
- ・初めに意識したいことを考えた後に、それらをアウトプットする場面を入れると効果的である。
- ・1時間の中で鑑賞して質問が出来るフリータイムを設けて交流する時間（個々のタイミングで決めて）があると生徒に委ねながら考えを深めさせることが可能である。

### ② 教科の見方・考え方を踏まえて子供に委ねる工夫の実践例

- ・課題を達成するために考えてほしいことを伝える。どのような方法で考えていくのがやりやすいかを生徒に決めさせる。その際に意識して欲しい見方や考え方は先に全体で共有する形で実践。
- ・制作時の表現方法や工夫点は、これまで学んできたことや、やってみたい表現などから生徒自身に考えさせた。

### ③ 高中スタイルで取り組んだ成果及び課題・改善策

#### (成果)

- ・課題解決に向けて本時に考えることを複数設定し、どのように考えていくかを生徒に決めさせた。それにより、複数の視点から考えることが出来たことと、全体の場を共有するために各グループで真剣に考える様子が見られた。
- ・高中スタイルでいろいろな教科で取り組みを行っているため、グループ内での役割分担などをスムーズに行うことができた。

#### (課題・改善策)

- ・考え方の振り返りを100字程度で行うと、入力する時間の確保が課題である。

## (7) 保健体育科

### ① 学校訪問・要請訪問の授業整理会より

- ・学習環境○ → いろいろな場や資料があった
- ・見取り、働きかけ○  
→できていない生徒、停滞している生徒への声掛けや同じ技の生徒同士をつなぐ声掛け
- ・単元のゴールの意識をして活動ができているかを考える
- ・事前に知識（技のポイント）を確認する  
→生徒同士で教え合ったりする場面がもっと増えるのでは？

## ② 教科の見方・考え方を踏まえて子供に委ねる工夫の実践例

- ・陸上競技（リレー）でペアでより良いバトンパスを目指して、各ペアでバトンパスの練習や動画でのチェック、仲間や先生にチェックもらってアドバイスをもらうなどを生徒にゆだねて授業をした。
- ・球技（バスケットボール、バレーボール）では、球技大会に向けて自分自身やチームの課題に応じて練習を自分たちで考え、活動する授業をした。
- ・器械運動（マット運動）で、様々な技の習得や出来栄への向上の練習を自ら選択し、練習をする活動をした。

## ③ 高中スタイルで取り組んだ成果及び課題・改善策

### （成果）

- ・高中スタイルの授業を実施することで、運動が苦手、得意にかかわらず自分の課題に向かって活動する姿が見られ、仲間と交流する場面も多かった。

### （課題・改善策）

- ・球技などの集団スポーツでは個人の課題とチームの課題が必ずしも一致することではなく（例：バレーで個人はサーブが課題だが、チームはパスが課題）その面の調整が生徒は難しく、個人よりチーム練習が中心になる場面があった。
- ・器械運動は、できる生徒とできない生徒が分かれるため、できない生徒への声掛けに重点が置かれ、できる生徒への支援が十分にできなかった。

## （8）英語科

### ① 学校訪問・要請訪問の授業整理会より

- ・授業後に整理会を行うことで、教員同士が率直に意見を交わすことができ、同僚性の高まりを実感した。互いの実践を尊重し合いながら改善点を共有できる、建設的な協議の場となっていた。
- ・授業中の声掛けをできるだけ英語で行うことで、教室全体が「英語を使う場」として意識づけられ、生徒が英語に触れる時間と量を自然に増やすことができた。
- ・単元目標を明確に書いて提示したことで、授業のねらいが焦点化され、生徒・教師双方が学習のゴールを意識しながら授業を進めることができた。
- ・授業を振り返る視点が共有されることで、「何を大切にしたい授業だったのか」が明確になり、次の授業改善につながる具体的な示唆を得ることができた。

### ② 教科の見方・考え方を踏まえて子供に委ねる工夫の実践例

- ・メスキルヒ市の生徒に向けて日本の学校生活を紹介する活動を通して、「誰に・何のために伝えるのか」を意識した表現活動を設定した。
- ・目的・場面・状況を明確にした授業構成により、生徒は内容や表現を自分で取捨選択しながら、相手意識をもって言語活動に取り組む姿が見られた。
- ・教師が細かく指示するのではなく、生徒に判断を委ねる場面を意図的に設けることで、

生徒自身が教科の見方・考え方を働かせながら学習を進めることができた。

- ・伝えたい内容をどう表現するかを考える過程で、生徒の主体性や創意工夫が引き出され、学習への意欲の高まりが感じられた。

### ③ 高中スタイルで取り組んだ成果及び課題・改善策

#### （成果）

- ・前時の振り返りを次の授業に意識的につなげることで、生徒が自分の課題や成長を自覚しながら学習を積み重ねる姿が定着してきている。
- ・テーマに沿って内容を整理し、まとまりのある文章を書こうとする生徒が増え、表現の一貫性や論理性が向上してきた。

#### （課題・改善策）

- ・一方で、表現が形式的になってしまう生徒もいるため、今後は具体例や自分の考えをより深く盛り込めるような支援や問い掛けを工夫していく必要がある。
- ・引き続き、生徒の振り返りを授業改善に生かしながら、書くこと・伝えることの質を高める指導を継続していきたい。

## 9 研究のまとめ

### (1) 成果

- ・「生徒に委ねる」ことを意識した授業が増えた。
- ・「高中スタイル」という形の授業を展開する中で、教師が、どのような授業を展開すれば子供が授業内で主体的に学ぼうとするのかを、より深く考えることができた。
- ・生徒間に安心して学習する土台ができた。このことは、協働的な学習を進める上で強みとなっている。
- ・「高中スタイル」の授業を続けることで、生徒の中で、普段の授業についても、自ら学びを進めることへの意識が高まってきている。

### (2) 課題

- ・授業の中で学習内容をより深めるために、さらなる改善が必要である。生徒が、各教科の見方・考え方を働かせて授業に臨めるような工夫をより意識していく。
- ・自分で考えて行動する力を十分に育成できていない生徒もおり、さらなる支援を考える必要がある。
- ・教科の特性から「高中スタイル」の授業の展開が難しい場面もあった。

### (3) 今後に向けて

- ・生徒が自分の判断で教科の見方・考え方を使うことができるようにするために、教科の見方・考え方を生徒と共有する。
- ・来年度も年度当初に、学習集会等の機会を設け、授業モデル（高中スタイル）に取り組む意味やポイントを提示し、教職員と生徒間で共通理解を図る。
- ・4研究部会による研究をさらに推進する。研究結果の具体的な検証も実施する。
- ・引き続き全職員で授業作りを実践する。授業を充実させるための教科部会を適宜行いながら、経験や実績を積み上げ成果や課題を共有する。
- ・「高中スタイル」の大筋は変更しないものの、教科の特性を加味した形とする。

= 資料 1 =

## 高中スタイル（令和7年度 授業モデル）

= 資料 2 =

「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」

## 学校研究の現在地（2年目）

= 資料 3 =

公開発表研究会（令和7年11月21日実施）

## 学習指導案・研究概要

## 高中スタイル（令和7年度 授業モデル）

### 授業前:教師の準備

- ・生徒が単元（題材）における本時の位置、学習内容を理解し授業に臨めるようにする（前時の終末、classroomの活用等）
- ・生徒が選択する学習方法等を予測し、教材等の準備をする

### 導入:7分以内

- ・生徒が本時の課題をとらえる
- ・生徒が本時の目標（授業後の到達イメージ、評価基準）を具体的に知る（単元計画、ループリック等）

### 展開:可能な限り長く時間を設定

生徒

- ・自分の考えを持ち、自由に学習を進める（個別最適な学び、見方・考え方を働かせる選択）
- ・必要に応じて他の生徒と話し合う（動的な協働）
- ・他生徒の発信を見て、学習を進めることも可（静的な協働）
- ・自分の進捗、学習成果を発信する

教師

- ・生徒の学習の評価及び進捗を見取り、「協働的な学び」につなげるようファシリテートする
- ・全体指導は最低限とする
- ・生徒の学習をリアルタイムで評価し、学習の方向性を確認する（誤りがある場合は修正に導く助言をする）

### 終末:5分

- ・生徒の手で、本時のまとめを作り上げる
- ・本時の学びを明らかにする（できたこととできなかったことを明らかにし、次時の学習内容について見通しを持たせる）

### 学習の振り返り:5分

- ・「学び方」についての振り返りを書かせる。（100字以上）
- ・学校共通のフォーマットを使用する（スプレッドシート）

「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」

高松中学校の研究の進め方

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

1年目

### 学び方を選択し調整する・ICTの効果的活用

選択する場面の設定（個別最適な授業の第一歩）

資質能力を育む手段の一つ

協働も意識

育みたい資質・能力を意識した選択

- ・生徒が「学び方」を振り返る機会→学びの自己調整力
- ・新しい教科書での単元計画づくり
- ・ICTの効果的活用 ← 活用の目的の明確化

2年目

### 学習の評価

- ・個別最適な学びをする生徒への評価・見取り
- ・子供の、学び方などの変容の評価・記録

中間発表会

現在地

3年目

### 研究の総まとめ

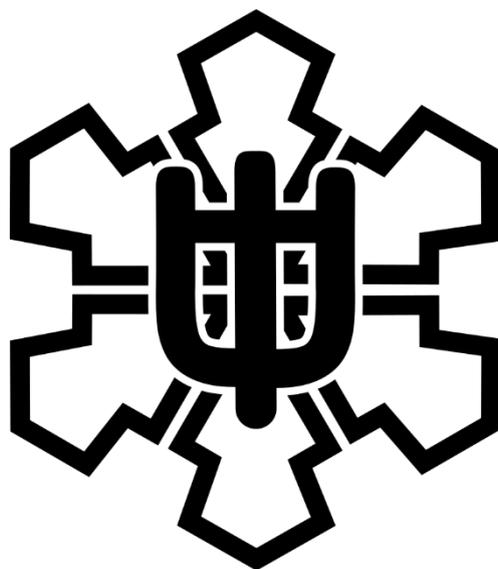
- ・これまで2年間でやってきた内容のさらなる充実
- ・メタ認知能力
- ・研究発表会の、発表形態の工夫

研究推進指定 公開授業・研究発表会

石川県教育委員会指定  
令和7年度 学力向上プログラム推進事業  
「令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」

# 研究発表会

## 学習指導案・研究概要



令和7年11月21日（金）

かほく市立高松中学校

# 学 習 指 導 案

## 5限 公開授業① 14:10~15:00

学年・組	教 科	単元・題材名	指 導 者	場 所	ページ
1年1組	数 学	比例と反比例	高名 智之	1年1組	1
1年2組	美 術	暮らしをいろいろ文様	清水 駿	美術室	3
1年3組	英 語	Unit8 Think Globally, Act Locally	上谷 由喜	1年3組	5
2年1組	音 楽	交響曲第5番ハ短調	山本 美幸	2年1組	7
2年2組	数 学	平行と合同	猪股 啓子	2年2組	9
2年3組	国 語	適切な根拠を選んで書こう(※)	安原 広樹	2年3組	11
3年2組	英語(標準)	Unit5	地藤 璃紅	英語科教室	15
	英語(基礎)	What makes a good leader?	北村 菜月	3年2組	17
3年3組	理 科	仕事とエネルギー	政近 顕純	第2理科室	19

## 6限 公開授業② 15:15~16:05

学年・組	教 科	単元・題材名	指 導 者	場 所	ページ
1年1組	社 会	世界の諸地域(※)	櫻井 千明	1年1組	21
1年2組	保健体育	器械運動~マット運動~	石垣 孝明	体育館	25
1年3組	国 語	今に生きる言葉	瀧本アンナ	1年3組	27
2年2組	英語(標準)	Unit6 How can we make a good presentation?	糀元 桜児	英語科教室	29
3年2組	社 会	生産と労働	山本 佳依	3年2組	31
3年3組	数学(標準)	相似な図形(※)	渡邊 聡	3年3組	33

(※) 学習指導案を細案で作成、他は本時案で作成

# 1年1組 数学科 学習指導案

令和7年11月21日（金）第5限

場 所 1年1組教室

指導者 高名 智之

## 1 単元名 比例と反比例

### 2 本時の学習

(1) 小単元名 比例と反比例の利用

(2) ねらい

具体的な事象の中の数量の関係が比例や反比例であることを見だし、問題を解決することができる。

(思考力、判断力、表現力等)

(3) 教科の見方・考え方を踏まえて子供に委ねる工夫

比例とみなすと、表や式で求めることができることを確認し、既習事項をヒントに出しながら問題を解かせる。

(4) 準備

クロムブック

(5) 指導過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点(・)と評価(◎)
Step1 5	1 海岸の漂着ごみの量を推定する問題の解き方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1学期の海岸清掃をしたことを想起させ、課題への関心を引く。</li> </ul>
2	2 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;">かほく市のゴミの量を推測するにはどう考えればよいか。</div>	
Step2 3 5	3 かほく市のゴミの量を推測する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;">5月の河北郡市（かほく市、津幡町、内灘町）で処分されたごみの量は2748tである。かほく市のごみの量を推測しなさい。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ かほく市、津幡町、内灘町の人口がわかればいい。</li> <li>・ かほく市の人口は約35,000人だ。</li> <li>・ 1人あたりのごみの量を求めればよさそう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 河北郡市のごみの量、面積、人口などの資料を用意する。</li> <li>・ 計算を簡単にするため、概数で求めさせる。</li> <li>・ ゴミがまんべんなく散らばっていると仮定すると、比例とみなせることを確認する。</li> <li>・ 表や式を使って考えさせる。</li> <li>・ オクリンクプラスで全体に考えを共有する。</li> </ul>
	4 かほく市の海岸のごみの量を推定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;">5月のゴミ拾いで、2kmで100kgごみを拾えた。かほく市の海岸を11kmとして、5月のかほく市の海岸のごみの量を推測しなさい。</div>	

Step 3 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海岸に均等にごみが落ちているとすると、比例とみなして計算できそう。</li> <li>・1 kmあたりのゴミの量が分かれば推測できそう。</li> <li>・<math>y</math>を<math>x</math>の式で表すと、計算できそう。</li> </ul>	◎具体的な事象の中の数量の関係が比例や反比例であることを見だし、問題を解決することができる。 …思考力・判断力・表現力等 (発言、ノート)
	5 課題に対するまとめを考える。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">           人口や面積をもとにして、比例とみなして考えればよい。         </div>	
5	6 振り返りをする。	・学び方に関する振り返りをする。

(7) 板書計画

課題

<かほく市のゴミの量を推測するにはどう考えればよいか。>

ゴミの量は 2748000 kg 河北郡市の人口は約 10 万人 1 人あたり 27,48 kg だから、かほく市のゴミの量は約 961800 kg と推測できる。	2 km で 100 kg なら、 1 km で 50 kg である 11 km では 550 kg となる	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px 5px; margin-bottom: 5px;">まとめ</div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">           人口や面積をもとにして、比例とみなして考えればよい。         </div>
$y=50x$ と表せる。 $x=11$ を代入すると、 $y=500$ となるから、 550 kg である。		

# 1年2組 美術 学習指導案

令和7年11月21日(金) 第5限  
 場所 美術室  
 指導者 清水 駿

## 1 題材名 暮らしをいろどる文様

### 2 本時の学習

(1) 題材名 暮らしをいろどる文様

(2) ねらい

日本や諸外国の文様の造形的なよさや美しさを感じ取り、表現の工夫や文様に込められた願い、生活との関わりについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。

(思考力、判断力、表現力等)

(3) 教科の見方・考え方を踏まえて子供に委ねる工夫

文様の基となるモチーフを考え、感謝の気持ちを込めたメッセージカードづくりにつなげられるように、参考となる文様の形・色・モチーフ・構成の工夫を採らせる。

(4) 準備

参考写真、参考作品など

(5) 指導過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点(・)と評価(◎)
Step1 3	1 本時の課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">文様に込められた願いや工夫にはどんなものがあるだろう</div>	
3	2 参考作品を見て第一印象を発表する。 ・キレイ ・カラフル ・不思議 ・なつかしい など	・思いつくことをどんどん出せるように声かけをする。
Step2 17~27	3 文様がどのようにグループ分けされているか考えよう。 ・形や色、模様の大さきで分けている。 ・何をモチーフにしているかで分けている。 ・楽しそう、落ち着くなどの表している感情で分けている。 など  4 吉祥文様と生活との関わりについて考える。 ・いろいろな物に使われている。(服、工芸品、お祝いの品など) ・長寿、繁栄、健康、厄除け、人々の幸せ、願い、思いなどが込められている。 5 文様に込められている工夫はなんだろう ・簡略化 ・繰り返し ・組み合わせる ・色づかい ・色の配置 など	・3 4 5の学習活動について、どのような方法で考えていくのかを生徒に問いかけ、決定させる。 (グループごとに同時に考えていく場合は17分で行い、段階的にみんなで考えていく場合は27分で行う。)  ◎日本や諸外国の文様の造形的なよさや美しさを感じ取り、表現の工夫や文様に込められた願い、生活との関わりについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。…思考・判断・表現(ワークシート、観察、机間指導)
Step3 15~5	6 考えたことを全体で共有する。 3 4 5の学習活動で出た意見などから見方や感じ方を広げる。	・3 4 5をみんなで考えていく場合は5分で行い、グループで同時に考えた場合は15分で共有させる。



# 1年3組 英語科 学習指導案

令和7年11月21日（金）第5限  
 場所 1年3組教室  
 指導者 上谷 由喜

## 1 単元名 Unit8 Think Globally, Act Locally

### 2 本時の学習

- (1) 小単元名 Unit Activity
- (2) ねらい

かほく市民に、市をより Well-being にするための方策と協力を呼びかけるため、自分たちの取り組みや学び、思いが伝わるよう内容を工夫し、友達と原稿を見比べながら、よりよい原稿を書くことができる。  
 (思考力、判断力、表現力等)

- (3) 教科の見方・考え方を踏まえて子供に委ねる工夫

「かほく市民に、みんなでかほく市をより Well-being にするために、総合的な学習での学びを伝え、協力を呼びかけよう」というテーマ設定である。英語科の学習と総合的な学習の時間での探究活動を関連づける。どのような内容で、どのように表現をすれば協力を促すことができるのかを工夫し、情報を整理しながら自分の考えや意見を再構築させていく。

- (4) 準備

クロムブック、ワークシート（思考ツール）、単元計画と振り返りのスプレッドシート

- (5) 指導過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点（・）と評価（◎）
Step1 3 2	1 前時に作成した原稿を確認する。 2 本時の課題をつかむ。	・前時に自分がどんな原稿を書いていたのか思いださせる。
	どんな内容の原稿を書けば自分の思いがかほく市民に伝わるだろう？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもたせるため、本時の流れを黒板に掲示しておく。</li> <li>・本時に自分が工夫する点は何かを考えさせる。</li> </ul>
Step2 4 0	3 自分の原稿の内容を再度見直し、再構築していく。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっとわかりやすい言葉にしよう。</li> <li>・呼びかけなど、ポジティブな表現にしよう。</li> <li>・短い文章にしよう。</li> <li>・接続詞を使って、まとまりのある文にしよう。</li> <li>・意見に対して理由を書こう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文の構成や既習表現、使いそうな表現を黒板に掲示しておく。</li> <li>・誰に対して発信するのかを再確認する。</li> <li>・必要に応じて、友達との原稿と比較したり、ALTに質問したりするよう指示する。</li> </ul> ◎かほく市民に、市をより Well-being にするための方策と協力を呼びかけるため、自分たちの取り組みや学び、思いが伝わるよう内容を工夫し、友達と原稿を見比べながら、よりよい原稿を書くことができる。 …思考・判断・表現（ドキュメント）
Step3 5	4 課題に対するまとめを考える。	・本時の最初のメッセージと、再構築して完成したメッセージを比べ、学び方を振り返らせる。

(6) 板書計画

**課題** <どんな内容の原稿を書けば自分の思いがかほく市民に伝わるだろう？>

<文の構成(例)>

- ①タイトル
- ②内容
- ③メッセージ

to+動詞の原形

need

want

try

can

Well-being

fiber

clean the beach

plastic waste

upcycle A into B

local produce

traditional (craft) industry

## 2年1組 音楽科 学習指導案

令和7年11月21日（金）第5限  
場 所 音楽室  
指導者 山本 美幸

- 1 題材名 曲想と音楽の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう  
交響曲第5番 ハ短調 (L. v. ベートーヴェン作曲)

2 本時の学習

- (1) 題材名 「ベートーヴェン作曲 交響曲第5番」の謎を探ろう

(2) ねらい

「交響曲第5番ハ短調」の曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、調べる項目やツールを主体的に選択し、意欲的に学習活動に取り組んでいる。(学びに向かう力、人間性等)

(3) 教科の見方・考え方を踏まえて子供に委ねる工夫

第1時で学習した内容から、「なぜ？」につながるような項目をいくつか準備し、そこから自分で選んで調べる。学習に使うツールや仲間との助け合いを生徒に委ね、「謎を探る」というスタンスで意欲を喚起する。

(4) 準備

この楽曲に関する書籍、クロムブック、キーワードを書いたカード、クラスルームに音源をあげる

(5) 指導過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点（・）と評価（◎）
Step 1 2 1	1 校歌を歌う。  2 本時の課題をつかむ。	
	「ベートーヴェン作曲 交響曲第5番」の謎を探ろう	
5	3 前時に学習した内容の中から、自分ほどの項目について調べるかを決め、オクリンクのカードに記入する。 ・なぜ「運命」と名付けられたかについて調べよう。 ・「形式の違い」を聴き比べよう。	・「ベートーヴェンの人物像」「作曲技法」など、ビバルディの「春」とも比較しながら、調べる項目のヒントを出す。
Step 2 2 7	4 書籍、ネット、音源などを利用して、自分が取り組む項目を調べ、分かったことをカードに記入する。 ・ベートーヴェンは難聴に苦しみながらも作曲を続けたんだな。 ・ソナタ形式とリトルネッロ形式の違いはなんだろう。 ・動機のリズムが繰り返されることで、何か迫ってくるような感じがするな。	・自分で理解したことだけ記入するよう促す。 ・情報交換しながら進めてよいことにする。 ・調べたことと楽曲が結びつくよう、音源を十分利用するよう促す。 ◎「交響曲第5番ハ短調」の曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、調べる項目やツールを主体的に選択し、意欲的に調べ活動に取り組んでいる。 …主体的に学習に向かう態度 (観察、成果物)

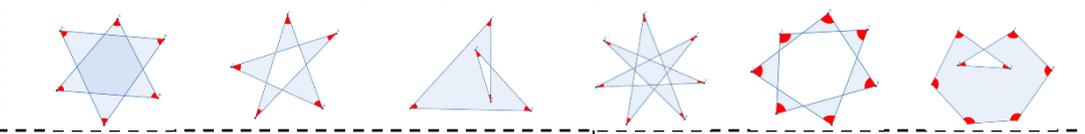
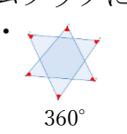
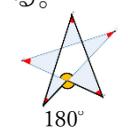
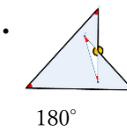
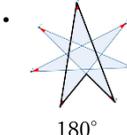
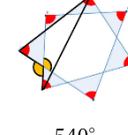
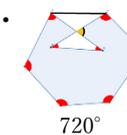
Step 3 10	5 記入したカードをオクリンクプラスの提出ボックスに提出する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 他の生徒が調べたものについて目を通させる。</li> </ul>
	6 謎にどれだけ迫れたかを数人、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 発表内容に沿って音源も流し、みんなで確認する。</li> </ul>
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) ダダダダーンという動機のリズムと、「運命が扉をたたく」とベートーヴェンが言ったことが元になり「運命」と名づけられた。特に第1主題は何かを追いかけて来るようで、困難な運命を表しているように感じられる。</p> </div>		
5	7 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本時の学習で粘り強く取り組めたかや、どんな学び方の工夫をしたかを中心に振り返らせる。</li> </ul>

(6) 板書計画

課題	<p>&lt;「ベートーヴェン作曲 交響曲第5番」の謎を探ろう&gt;</p>	
	<p>授業の流れ</p>	<p>調べるキーワード</p>
まとめ	<p>(例) ダダダダーンという動機のリズムと、「運命が扉をたたく」とベートーヴェンが言ったことが元になり「運命」と名付けられた。特に第1主題は何かを追いかけて来るようで、困難な運命を表しているように感じられる。</p>	



(5) 指導過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点 (・) と評価 (◎)
Step1 2	1 問題を知る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">             印をつけた角の和を求めよう。また、その求め方も説明しよう。   </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を提示し、印をつけた角を確認する。</li> </ul>
1	2 本時の課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">             角の和はどのように求めることができるだろう？           </div>	
4	3 学習した図形の性質を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平行線の同位角、錯角は等しい。</li> <li>・対頂角は等しい。</li> <li>・三角形の内角、外角の性質</li> <li>・n角形の内角の和は、<math>180^\circ \times (n - 2)</math></li> <li>・凹型四角形の角の性質</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の図形の性質を確認し、黒板に提示する。</li> </ul>
Step2 2 6	4 自分で問題を決めて、求め方、答えをクロムブックに記入する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・  <math>360^\circ</math></li> <li>・  <math>180^\circ</math></li> <li>・  <math>180^\circ</math></li> <li>・  <math>180^\circ</math></li> <li>・  <math>540^\circ</math></li> <li>・  <math>720^\circ</math></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手書きで記入できるシートを準備しておく。</li> <li>・一人一つ以上の問題を自分で選び、角の和を求めるよう指示する。</li> <li>・求め方となぜその求め方ができるのか根拠をシートに記入するよう指示する。</li> <li>・補助線を引いてもよいことを確認する。</li> <li>◎角の和の求め方を、補助線や根拠となる図形の性質を明らかにして説明することができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">…思考・判断・表現 (シート、観察)</p>
1 0	5 なぜ4のように求めることができるか紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助線をひいて、三角形と凹型四角形に分ける。</li> <li>・図形の中で凹型四角形を見つける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかの生徒のシートを見て、なぜそのように求められるのか理由を考えるよう指示する。</li> <li>・生徒が求めた問題をいくつか紹介し、利用した特徴、性質を確認しながら性質のプレートを貼る。</li> </ul>
Step3 2	6 課題に対するまとめを考える。 <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;">             図形の中で、三角形や四角形、凹型四角形などの図形を見つけ、図形の性質を利用して角を集めたり、移動したりすることで、角の和を求めることができる。           </div>	
5	7 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特にどの特徴や性質を使って求めるとどのような利点があるか、本時の学習の進め方について振り返らせる。</li> </ul>

## 2年3組 国語科 学習指導案

令和7年11月21日（金）第5限  
場 所 2年3組教室  
指導者 安原 広樹

### 1 単元名 中学生が語る—地球の未来～SDGsの達成に向けた県民への提言～

#### 2 単元の目標

- (1) 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。  
[知識及び技能] (2) ア
- (2) 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。  
[思考力、判断力、表現力等] B書くこと (1) イ
- (3) 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる意見文になるよう工夫することができる。  
[思考力、判断力、表現力等] B書くこと (1) ウ
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。  
「学びに向かう力、人間性等」

#### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 (2) ア	・「書くこと」において、伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。 B (1) イ ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる意見文になるよう工夫している。 B (1) ウ	・進んで根拠の適切さを吟味し、学習の見通しをもって、SDGsの達成に向けた意見文を書こうとしている。

#### 4 指導にあたって

##### (1) 教材観

「適切な根拠を選んで書こう」は、1年時の「根拠を明確にして書こう」の既習を踏まえて、3年時の「考えを効果的に伝えよう」に向かって、適切な根拠の吟味について思考を深める位置づけとなる。根拠そのものに信頼性があるか、意見と根拠の結び付き（「理由づけ」）に曖昧さや無理がないか、根拠を挙げる際に他の可能性を無視していないかなど、根拠の妥当性を評価すること、すなわち吟味する力を身につけるのに適した教材である。そして、意見を支える適切な根拠を示し、妥当な「理由づけ」をすることが、相手からの納得を得る、説得力のある意見文となることを理解するのに適した教材といえよう。そのうえで、社会における関心事について情報を集めたり、積極的に意見をもったりと主体的に意見文を書くきっかけとなる教材ともいえる。

##### (2) 生徒観

以下は、9月に行った授業アンケートの結果である。

項目	肯定的評価 (%)
①国語の授業は好きですか。	86.2
②あなたは意見文を書く力が身につけていると思いますか。	34.4
③あなたは意見を述べる際に根拠を示していますか。	50.3
④あなたは説得力の高い意見文に根拠が必要だと思いますか。	100

「書くこと」において、1年時の「根拠を示して説明しよう」の学習を通して、自分の考えの説得力を高めるためには、根拠を明確に示す必要があることを理解している。しかし、そもそも根拠とは具体的に何を指すのかを理解しておらず、根拠と理由との違いを理解していない生徒が多い。よって、文章を書く際に、根拠を挙げることができなかつたり、挙げたとしても具体性に欠けていたり、挙げたつもりでいるが理由しか述べていなかったりと課題がある。その結果、根拠が不十分であることが文章の説得力を高めることができないことの原因の一つになっていることを理解するに至っていない生徒が多い。また、文章を書くこと自体に抵抗は少ないものの、文章を構造的に捉えることが難しく、論理的に文章を構成することに苦手意識を抱えている生徒も多い。よって、説得力のある文章にするために文章の要素（意見・根拠・理由づけ等）をどのように配置するべきかが判断できない生徒が多くいる。

### (3) 指導観

単元における主たる言語活動として、「SDGsの達成に向けた意見文を新聞に投書する」を設定する。各学習活動のねらいが生徒に焦点化できるよう、生徒に相手意識（新聞の読者のため）と目的意識（SDGs達成に向けた実践を促すため）を明確にもたせながら、必要感をもたせて、モチベーションを保ちながら学習に臨ませたい。そして、生徒が深い学びへと到達することをねらいとした、生徒が主役となり主体的に取り組む姿を追求するために、生徒が学び方を自己決定する場を多く設けていきたい。そうすることで、研究主題の「自ら学ぶ」生徒の育成の土台ができると考える。その際、その学び方が国語科としての資質・能力の育成に効果的につながるものとなるよう教師が見取り、支援したい。また、必要な知識を理解・習得させながら、学習形態・時間・方法・道具（教材）等を生徒が選択できるようにし、その過程で生徒が感じた困り感や疑問等を、観点ごとに必要感を感じて話し合えるよう、学習展開や学習環境を工夫し、「高め合う」生徒の育成につなげていきたい。以上の指導を踏まえつつ、単元の最後には目標の達成度を振り返らせることで、学習を経て身についた力をメタ認知させたい。そうして、実生活で生かしたいと考える主体性を養いたい。

### 5 単元の指導・評価計画（総時数5時間）（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

時	主な学習活動	知	思	態	評価規準
1	「書くこと」に関する既習事項を振り返り、教科書の文章を通読する。目標・言語活動を把握し、学習計画を立てることで見通しをもつ。	○		●	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。（観察、ワークシート）</li> <li>進んで根拠の適切さを吟味し、学習の見通しをもって、SDGsの達成に向けた意見文を書こうとしている。（観察、スプレッドシート）</li> </ul>
2	意見文の要点（SDGsのゴール・意見・根拠・理由づけ）を考える。		○	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>「書くこと」において、伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。（観察、スプレッドシート）</li> <li>進んで根拠の適切さを吟味し、学習の見通しをもって、SDGsの達成に向けた意見文を書こうとしている。（観察、スプレッドシート）</li> </ul>
3 ・ 4 ・ 5	<p>前時に考えた意見文の要点が、説得力のある意見文にするために適切かどうか吟味する。</p> <p>400字程度の意見文をまとめる。</p> <p>意見文を級友と相互評価し、助言を踏まえて修正する。学習全体を振り返る。</p>		○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる意見文になるよう工夫している。（観察、スプレッドシート、ドキュメント）</li> <li>進んで根拠の適切さを吟味し、学習の見通しをもって、SDGsの達成に向けた意見文を書こうとしている。（観察、スプレッドシート）</li> </ul>

6 本時の学習 (3 / 5)

(1) 小単元名 中学生が語る—地球の未来～SDGs の達成に向けた県民への提言～

(2) ねらい

根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる意見文になるよう工夫することができる。

(思考力、判断力、表現力等) B (1) ウ

(3) 教科の見方・考え方を踏まえて子供に委ねる工夫

自分が選んだ根拠が、意見を支え、説得力を高めるために適切かどうかを吟味する視点を持ち、前時にスプレッドシートに入力した「意見文完成までの要点 (SDGs のゴール・意見・根拠・理由)」を適宜加除修正しながら共有できるようにしたり、「悩んだり困ったりしていること」を新たに入力したりして、学び合う際の視点にできるような学習展開や学習環境を設定することで、考えを広げたり深めたりする協働的な学びを生徒間で行わせたい。

(4) 準備

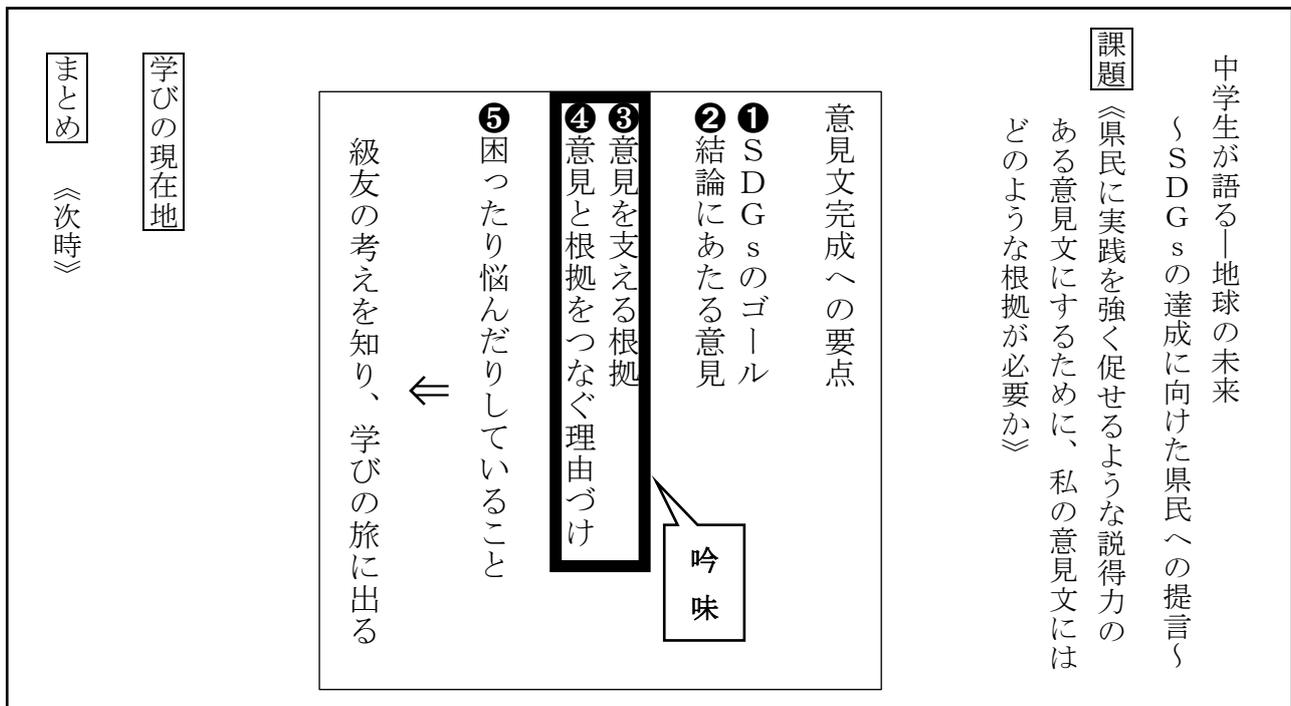
クロムブック、ワークシート、完成モデル、SDGs 関連資料

(5) 指導過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点 (・) と評価 (◎)
Step1 5	<p>1 「言の葉タイム」を行い、心に残った言葉を交流する。</p> <p>2 前時の学習を振り返り、学習計画の中の本時の位置づけを理解する。 ・言語活動の相手意識、目的意識、そして学びの現在地を思い出すことができた。</p> <p>3 本時の課題を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当生徒の紹介に対して教師が価値づけすることで、生徒が言葉の解釈を広げたり深めたりできるようにする。</li> <li>生徒に振り返りをペアで交流させることで、学習状況をメタ認知できるようにする。</li> <li>大型TVを利用して学習計画等を視覚化することで、単元の中の本時の学びの位置を知るとともに、学習の見通しがもてるようにする。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     県民に実践を強く促せるような説得力のある意見文にするために、 私の意見文にはどのような根拠が必要か                 </div>	
Step2 40	<p>4 教師の示す不適切なモデルを分析し、説得力のある意見文にするための適切な根拠・理由を理解する。 ・根拠があればよいわけではない。意見と根拠をつなぐ適切な理由づけが必要だ。 ・意見を支える根拠だからこそ説得力につながる。</p> <p>5 前時に入力した「意見文完成までの要点」のうち③・④について級友と交流しながら吟味する。⑤として、困ったり悩んだりしていることがあれば新たに入力して級友と共有・交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデルの何がどのように不適切かを考えることを通して、自分や級友の考えを吟味する際の考える手掛かりとすることができるようにする。</li> <li>前時に入力した他生徒の「意見文完成までの要点」スプレッドシートを参照できるようにしたり、困ったり悩んでいることを表出したりできるようにICTを活用することによって、自分の考えをメタ認知でき、級友との協働的な学びを促すことができるようにする。</li> <li>SDGs に関する書籍を教室に準備することで、SDGs の理解が不十分な生徒がSDGs と身近な事象とを具体的に想起できるようにする。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     「意見文完成までの要点」                      ①SDGs のゴール                      ②結論にあたる意見                      ③意見を支える根拠                      ④意見と根拠をつなぐ理由づけ                 </div>	

<p>Step3 5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を支える根拠は適切だと思うけれど、理由づけがうまくできない。どのような理由づけだといいいのだろう。</li> <li>・自分では適切だと思った根拠より適切な根拠を教えてもらった。自分の意見文に追加しよう。</li> </ul> <p>6 学習活動の進捗状況を全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を支える根拠がさらに明確になった。</li> <li>・自分の意見を支える根拠を増やすことができた。</li> <li>・意見と根拠を支える理由づけをより適切なものにできた。</li> </ul> <p>7 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ SDGs のゴールを選んだ級友と交流したことでよりよい根拠を見つけることができて、自信につながった。</li> <li>・一人で活動する時間をもう少しつくることで、じっくりと自分の考えと向き合うことができればよかった。次回は気をつけたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校3年生の探究学習のゴールにあたる卒業論文を教室に準備することで、SDGs を身近に感じたり、根拠を見つけたりすることができるようにする。</li> <li>・根拠を吟味する上で、自分が時間をかける必要性を感じる部分に時間をかけて取り組めるよう、活動時間を保障することで、個別最適な学びを進めることができるようにする。</li> <li>・ドキュメントを使用させることで、加除修正が効率よくできるようにする。</li> <li>・挙手で意思表示をさせることで、自分の状況をメタ認知させ、今後の見通しをもたせる。また、教師が生徒の状況を見取り、指導に繋げる。</li> </ul> <p>・スプレッドシートに毎時間振り返りを入力させることで、単元を通した学びの深まりをメタ認知できるようにする。</p>
--------------------	--	---

(6) 板書計画



## 3年2組 英語科（標準コース） 学習指導案

令和7年11月21日（金）第5限  
場 所 英語科教室  
指導者 地藤 璃紅

1 単元名 Unit5 What makes a good leader?

2 本時の学習

(1) 小単元名 Unit Activity

(2) ねらい

高松中学校のみんなに向けて平和や人権について考えてもらうために、平和や人権に力を注いだ人を紹介し、平和や差別のない世界をつくるために必要な考え方等を含めて、読む人を意識して工夫された意見文を書くことができる。

(思考力、判断力、表現力等)

(3) 教科の見方・考え方を踏まえて子供に委ねる工夫

目的・場面・状況を常に意識しながら、どのような意見文を書いたら自分の強い思いが高松中学校のみんなに伝わり、自分事として平和や人権について考えてもらえるかを常に考え、情報を整理しながら自分の考えを形成していくことを意識させる。

(4) 準備

ワークシート、タブレット端末、振り返りを行うスプレッドシート

(5) 指導過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点（・）と評価（◎）
Step1 5	<p>1 前時に作った自分の記事の内容を読んで書いたことを確認する。</p> <p>2 本時の課題をつかむ。</p>	<p>・スムーズに本時の授業に入るために、前時に自分がどんなことを書いていたのか思い出させる。</p>
読む人を意識して、意見文を完成させよう		
Step2 35	<p>3 自分の意見文を内容面でも表現面でも再考する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Unit5で学習した関係代名詞を積極的に使っていないといけないよね。</li> <li>・人のことを後ろから修飾するときは、関係代名詞 who を使うんだよね。</li> <li>・respect others ってどういうこと？もっと具体的に、「try to understand people's feelings」とか「mustn't judge people by their looks」を付け足したほうが自分の思いが伝わるんじゃないかな。</li> </ul>	<p>・本時は自分の意見文を完成させる時間であることを伝え、本時にすることを見失わないようにさせる。</p> <p>・内容面でも表現面でもより良い意見文になるように、良い内容を書いていたり、表現を使っていたりしている生徒がいたら全体で紹介する。</p> <p>・必要ならば、前の単元のページを振り返りながら、教科書を何度も読み直し、正しい文法を意識させたり、使えそうな表現はないか探すことを意識させたりする。</p> <p>◎より自分の思いを主張できる意見文を作るために、どのような内容の意見文を書いたら自分の思いが強く伝わり、高松中学校のみんなに平和や人権について考えてもらうことができるか、友達の意見文を見合いながら、自分の意見文をさらによくすることができる。</p> <p style="text-align: right;">…思考・判断・表現 (ドキュメント、観察)</p>

		<p>○自分が意見文に追加した表現や、なぜそのような内容を追加したのかを、共有させる。</p>
<p>Step3 10</p>	<p>4 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニット5を通して、平和な差別のない世界をつくっていくことが大切だと改めて感じた。しかし、きっとどの人も平和な差別のない世界を求めているはずだけど、戦争やジェンダー差別をはじめとした様々な差別がなくなっていないのが、今の世界の現状である。今まで声を上げて、行動を起こしてきた人を調べると、どの人もカッコいいと感じた。自分にできることは小さいのかもしれないが、一人ひとりの考え次第で、世の中は良い方向にも悪い方向にもいくということを常に意識しながら、不平等や差別が見られる場面に遭遇したら、声をあげられる人になりたいと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で考えたこと、工夫したこと、そして学び方について振り返らせる。</li> </ul>

(6) 板書計画

<p><b>課題</b> &lt;読む人を意識して、意見文を完成させよう&gt;</p> <p>Key words</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ fight for human rights 人権のために戦う</li> <li>・ judge people by their looks 人を見た目で判断する</li> <li>・ peace 平和 ・ race 人種 ・ looks 見た目</li> <li>・ religion 宗教 ・ gender ジェンダー</li> <li>・ discrimination 差別 ・ fair 平等 ⇔ unfair 不平等</li> </ul>
---

## 3年2組 英語科（基礎コース） 学習指導案

令和7年11月21日（金）第5限  
場 所 3年2組教室  
指導者 北村 菜月

### 1 単元名 Unit5 What makes a good leader?

#### 2 本時の学習

(1) 小単元名 Unit Activity

(2) ねらい

より自分の思いを主張できる意見文を作るために、どのような内容の意見文を書いたら自分の思いが伝わり、高松中学校のみんなに平和や人権について考えてもらうことができるか、友達の見論文を見合いながら、自分の意見文をさらに良くすることができる。

(思考力、判断力、表現力等)

(3) 教科の見方・考え方を踏まえて子供に委ねる工夫

目的・場面・状況を常に意識しながら、どのような意見文を書いたら自分の強い思いが高松中学校のみんなに伝わり、自分事として平和や人権について考えてもらえるかを常に考え、情報を整理しながら自分の考えを形成していくことを意識させる。

(4) 準備

ワークシート、タブレット端末、振り返りを行うスプレッドシート

(5) 指導過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点（・）と評価（◎） 評価に対する支援（○）
Step1 4	1 前時に作った自分の記事の内容を読んで書いたことを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スムーズに本時の授業に入るために、前時に自分がどんなことを書いていたのか思いださせる。</li> <li>・自分が書いた文章が相手に伝わる内容かどうかを考えさせる。</li> <li>・必要があれば、相手からアドバイスをもらう。</li> </ul>
3	2 前時まで書いた文章をペアの人に伝える。	
2	3 本時の課題をつかむ。	
どのような工夫をすれば、高松中のみんなが平和や人権について考えてくれるだろう？		
Step2 6	4 読む人により分かりやすく伝えるには、どのような内容や情報が必要か考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少し、その人がしてきた功績について伝えた方がいいんじゃないかな。</li> <li>・その人が持っている賞なんかも言ったらいいかもしれないね。</li> <li>・その人がどこの人なのか、いつの時代の人なのかも入れたらもっと伝わるかもしれないね。</li> <li>・who だけじゃなくて、which や that なんかも入れたらより良い意見文になるね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつか生徒の中から出てきた意見を板書し全体に紹介する。</li> <li>・自分の意見文に磨きをかけるために、どのような内容を自分の意見文に追加すればよいか、内容面に注目させる。</li> </ul>
30	5 読む人により伝わるように、意見文の内容を再考する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・who の時って、どんな風に使えばよかったっけ。</li> <li>・The person I respect is ○○. って書け</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容面でも表現面でもより良い意見文になるように、手本となるような内容を書いていたたり、表現を使っていたりしている生徒がいたら全体で共有し、その生徒の意見文を見るよう促す。</li> </ul>

<p>Step3 5</p>	<p>ばいいのか。なるほど。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガンディーのようにはなれないけれど、自分が今できることは何だろう。それを書く必要があるかもしれない。</li> </ul> <p>6 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マララのことを紹介する際に、どのように説明すればより相手に上手く伝わるかを考えながら意見文を書いてきたけれど、本当に難しかった。マララの功績は書くことができてきたが、自分の意見がまだ全て書けていないので、自分はこれから具体的にどのようなことをしていくべきかということを書き加えて、意見文を完成させたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を自分事として捉えているかどうか問いかけ、もし辿り着いていない生徒がいた場合は、例文を見るよう促す。</li> </ul> <p>◎より自分の思いを主張できる意見文を作るために、どのような内容の意見文を書いたら自分の思いが強く伝わり、高松中学校のみんなに平和や人権について考えてもらうことができるか、友達の見文を見合いながら、自分の意見文をさらに良くすることができる。</p> <p>…思考・判断・表現 (ドキュメント、観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学び方を振り返ると共に、自分の意見文が前時と本時でどのように変化したのか、また工夫した点はどのような部分なのかについても振り返らせる。</li> </ul>
--------------------	---	--

(6) 板書計画

<p><b>課題</b> &lt;どのような工夫をすれば、高松中のみんなが平和や人権について考えてくれるだろう？ &gt;</p>	
<p>内容や情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・功績や賞</li> <li>・どうしてその人は尊敬されているのか</li> </ul>	<p>使える表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ This is the person who ~.</li> <li>・ He is respected because ~.</li> <li>・ It' s the book which he wrote ~.</li> </ul>

## 3年3組 理科 学習指導案

令和7年11月21日（金）第5限  
場 所 第2理科室  
指導者 政近 顕純

1 単元名 仕事とエネルギー

2 本時の学習

(1) 小単元名 エネルギー

(2) ねらい

物体を落下させる衝撃実験を行い、その結果を分析して解釈し、物体がもつ位置エネルギーについて、高いところにある物体ほど、また、質量が大きいほど、大きなエネルギーをもっていることを見いだすことができる。(思考力・判断力・表現力等)

(3) 教科の見方・考え方を踏まえて子供に委ねる工夫

物体がもつ「位置エネルギーの大きさ」と「物体の高さや質量」について、関係的な見方を働かせることができるように、実験結果を記入する表について、項目を含め自分で作成させる。また、量的・関係的な見方を働かせ、変化とそれに関わる要因を関係付けられるように、実験から考察までを生徒に委ねる。

(4) 準備

力学的エネルギー実験器、クロムブック

(5) 指導過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点（・）と評価（◎）
Step1 3	1 身近な現象を基に問いをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋根雪の図を見せ、その危険性から高さや質量に注目させる導入をする。</li> <li>・その理由を聞く。</li> <li>・重さに着目した場合は、質量の違いについて確認する。</li> </ul>
2	2 本時の課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">物体がもつエネルギーの大きさは、物体の高さや質量とどのような関係にあるのか</div>	
2	3 実験道具の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験を演示して見せる。</li> <li>・物体の持つエネルギーの大きさの違いは杭にどのような結果で現れてくるのか聞く。</li> <li>・表は必要に応じて変更してよいことを伝える。</li> <li>・誤差を小さくするための実験回数について確認する。</li> <li>・表を随時更新するように伝える。</li> </ul>
Step2 30	4 実験を行い、結果を処理し考察する。  ・物体がもつエネルギーは、おもりが高ければ高いほど大きくなる。なぜなら、おもりが高ければ高いほど杭が深く沈んだから。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験動画やヒントスライドを生徒自身が実験を進められるよう補助的な資料として準備する。</li> <li>・測定したら結果を記入していくよう伝える。</li> <li>・大きくデータが異なる場合は追実験を行うよう声掛けする。</li> </ul>

<p>5</p> <p>Step3 8</p>	<p>5 考察からまとめを書く</p> <p>5 学び方の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物体がもつエネルギーは、おもりの質量が大きければ大きいほど大きくなる。なぜなら、質量が大きければ大きいほど杭が深く沈んだから。</li> <li>物体がもつエネルギーはおもりの重さが大きいほど大きくなる。なぜなら、おもりが重ければ重いほどくいが深く沈んだから。</li> <li>おもりが高いほうが杭が深く沈んだので、高いほうがエネルギーが大きい。</li> <li>杭が大きく動いたからエネルギーは大きい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>他者の考察が参照できるように全員の考察を共有する。</li> <li>表の項目が書けない生徒には何と何の関係を調べたのか課題を確認する。</li> <li>考察が2つのデータ比較での表現にとどまっている生徒には、3つのデータの変化であることが分かる表現が必要なことに気づかせる。</li> <li>エネルギーの大きさを変化させたものは何かを実験方法から確認する。</li> </ul> <p>◎物体の落下実験を行いその結果を分析して解釈し、位置エネルギーは高いとことにある物体ほど、また、質量が大きいものほど大きいことを見いだすことができる。…思考・判断・表現 (オクリンク、スプレッドシート)</p> <p>課題解決のために、今日の学び方はどうだったかについて振り返るように伝える。</p> <p>次の学習はどこから始めるかについて振り返るよう伝える。</p>
<p>物体がもつエネルギーの大きさは、物体の高さが高ければ高いほど、また質量が大きければ大きいほど大きくなる。</p>		

(6) 板書計画

課題<物体がもつエネルギーの大きさは、物体の高さや質量とどのような関係があるのか>

まとめ 物体がもつエネルギーの大きさは、物体の高さが高ければ高いほど、また質量が大きければ大きいほど大きくなる。

・左のほうが高いところから雪が落ちてくるから危険

→ 物体の高さ

・左のほうが雪の量が多いから危険

→ 物体の質量

エネルギーとは

ある物体が別の物体に仕事をする能力をいう。

例 ハンマーが杭を地面に打ち込む能力

実験の注意点

- 測定後は杭をもとに戻す。
- おもりは一個ずつ使用する。
- おもりに勢いをつけない。

# 1年1組 社会科 学習指導案

令和7年11月21日(金)第6限  
 場所 1年1組教室  
 指導者 櫻井 千明

## 1 単元名 世界の諸地域

### 2 単元の目標

- (1) 各州に関する様々な資料を活用しながら、各州の地域的特色を理解することができる。  
 (知識及び技能)
- (2) 各州で見られる地球的課題の要因や影響を、場所、人と自然のかかわり、結び付きなどに着目して多面的・多角的に考察し、表現することができる。  
 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 世界の諸地域について、自ら問いを設定し、主体的に追究しようとする。  
 (学びに向かう力、人間性等)

### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界各地で顕在化している地域的課題は、それらが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。</li> <li>・世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul>

### 4 指導にあたって

#### (1) 教材観

第2編第2章「世界の諸地域」は、世界を6つの州に分け、それぞれの地域的特色をとらえるために主題を設定して追究していく単元である。生徒は、各州の自然環境、歴史的背景、人々のくらしや産業など多面的な要素を学び、相互の共通点や相違点を比較しながら理解を深めていく。また、各州が抱える環境問題、資源の偏在、人口や都市化の課題などは、国や地域を超えて影響し合う「地球的課題」として捉えられることから、国際的な視野や持続可能な社会づくりの重要性を考える契機となる。これらのことから、単元を貫く課題として「世界の各州が抱える『地球的課題』について、SDGsの視点から考えよう」というテーマを設定した。

#### (2) 生徒観

授業では、予想の場面で自分の意見を述べたり、積極的に協働学習に取り組んだりする姿が見られる。授業アンケートでは、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。」という質問項目に対して肯定的回答が98.8%であるものの、「振り返りでは、自分の学び方を見つめなおし、次に生かしている。」に対しては肯定的回答が90.2%にとどまっている。

また、i-checkの結果によれば「人間関係構築力」「発信力」に課題がある。授業の中で、生徒たちに役割と活躍の場を与え、クラスのみんなの役に立ったという経験を積ませることで自信を持たせたい。

#### (3) 指導観

生徒たちはこれまでに、人々の生活は自然環境や宗教によって異なることについて学習している。また、総合的な学習の時間において、「かほく市をWell-beingにするプロジェクトを実行しよう」というテーマで探究学習を行っている。

指導にあたっては、グラフの比較、主題図と雨温図の関連づけなど、複数の資料を読み取る活動を積極的に取り入れ、地理的技能を育みたい。探究活動の場面では、個人で考える時間とペア・グループで考える時間を取り、意見交流を活発に行うことで多面的・多角的な思考の形成につなげたい。このような学びを通じて、生徒が主体的に資料を調べ、他地域との結び付きや背景要因を考察し、自分の意見を形成・表現する力を育みたい。

5 単元の指導・評価計画（総時数 18 時間）（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

時	主な学習活動	知	思	態	評価規準
1	世界の六州と SDGs について、概要を知る。	●		●	世界の六州やテーマに興味を持ち、調べてみたいものを自分から選択して取り組んでいる。（発表、観察）
2 ～ 7	各州の自然環境について調べる。	●			統計資料を読み取り、各州の地域的特色を大観し理解している。（プリント、観察）
8	自分が探究する州とテーマを決定する。		●		自分の興味に沿って探究テーマを設定している。（プリント、観察）
9 ～ 11	資料を収集し、SDGs と関連付けて整理する。	●			適切な資料を選択し、自分の探究テーマに沿って説明している。（プリント、観察）
12	中間報告会を行い、ここまでの探究を振り返る。		○		各地域の特色や人々の暮らし、課題について、共通点や違いを見いだしながら比較したり、相互の関係を考えたりして、自分の考えをまとめ、表現している。（観察、ワークシート）
13 ～ 14	表現方法を選択し、発表の準備をする。		●		適切な表現方法を選択し、自分の探究テーマに沿ってまとめている。（ポスター、スライド、観察）
15 ～ 16	ワールドカフェ方式で発表・学び合いをする。		○		自然条件や課題を比較したり、関連付けたりしながら説明している。（発表、観察）
17	相手の発表の記録を使い、課題と SDGs との関連を整理する。	○			世界各地で顕在化している地域的課題は、それらが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。（プリント、観察）
18	単元の学習を振り返り、次に学びたいことをまとめる。			○	自分で問いを深め、学びを振り返って次に生かしている。（プリント、観察）

6 本時の学習（12／18）

(1) 小単元名 世界の諸地域

(2) ねらい

各地域の特色や人々の暮らし、課題について、共通点や違いを見いだしながら比較したり、相互の関係を考えたりして、自分の考えをまとめ、表現することができる。

(思考力、判断力、表現力等)

(3) 教科の見方・考え方を踏まえて子供に委ねる工夫

問いを考える際に「場所」「人と自然のかかわり」「結び付き」というキーワードを示し、生徒が探究学習の見通しをもてるようにする。

(4) 準備

スライド、ワークシート、SDGs パンフレット

(5) 指導過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点（・）と評価（◎）
Step1 2	1 本時の課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ここまでの探究を振り返る「中間報告会」をしよう</div>	
5	2 中間報告会の手順を確認する。	・分かったことだけでなく、困っていることやもっと調べたいことも伝えるよう促す。
Step2 20	3 中間報告会を行う。 ・私は、「場所」と「SDGs 目標6番」を結び付けて「乾燥地域はなぜ水不足になるのか」という問いを作りました。 ・自分の主張を裏付けるような資料が見つからなくて困っています。	・同じ州を調べた人同士で、4人程度の班をあらかじめ作っておく。 ・同じ州を調べた人同士で、問いのどこが同じでどこが違うか比較しながら、自分の探究の焦点を定めさせる。 ◎各地域の特色や人々の暮らし、課題について、共通点や違いを見いだしながら比較したり、相互の関係を考えたりして、自分の考えをまとめ、表現している。 …思考・判断・表現（観察、ワークシート）
8	4 班で、お互いに良かった点やアドバイス、質問などを書いて渡し合う。 ・具体的な資料があって分かりやすかったよ。 ・他の州のデータもあると、より説得力が増すのでは。	・聞き手には、発表を聞いて理解できなかった点や説明が具体的でない点、原因と結果が合っていない点などを質問させる。
Step3 10	5 中間報告会を受けて、今後どのように探究を進めていくかまとめる。	・今後やりたいこと、もっと調べたり深めたりしたいことをまとめさせる。
5	6 振り返りをする。	・他の人の発表から学んだことや、自分のこれまでの学習の仕方を振り返らせる。

(6) 板書計画

**課題** く ここまでの探究を振り返る「中間報告会」をしよう

今日の流れ

- ① 発表の準備
- ② 探究中間発表 (1人3分)
- ③ 班でコメント交換
- ④ 振り返り

キーワード

- 「場所」どこで起こっている？
- 「人と自然のかかわり」人と自然にどんな関わりがある？
- 「結び付き」どこと (州の中で・州を越えて) つながっている？



# 1年2組 保健体育科 学習指導案

令和7年11月21日（金）第6限  
場 所 第2体育館  
指導者 石垣 孝明

## 1 単元名 器械運動（マット運動）

### 2 本時の学習

#### (1) 小単元名 器械運動（マット運動）

#### (2) ねらい

技を習得するための自己の課題を発見し、課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選ぶことができる。（思考力、判断力、表現力等）

#### (3) 教科の見方・考え方を踏まえて子供に委ねる工夫

技のチェックシートを点数制にし、自分自身の体力技能に応じて自由に実施する技を選ぶことができるようにする。また、技の見本ボード、実技本、参考動画を準備し、各自で技のポイントを確認できるようにしておく。また、遅延再生や動画撮影などを通して、自分の動きと見本の動きのずれを確認できるようにする。以上のことを常に準備し、毎回前時の振り返りから本時の目標を決めることができるようなルーティーンにしていく。

#### (4) 準備

- ・ホワイトボード、技の見本ボード、実技本

#### (5) 指導過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点（・）と評価（◎）
Step1 3	1 前時の振り返りと現在の技の習得状況を確認する。	・前回の振り返りやワークシートを確認させる。
2	2 本時の課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">技を習得するためにどうすればよいか練習方法を考えよう</div>	
5	3 自分の目標を決める ・開脚前転をできるように傾斜をつけて練習をする。 ・ブリッジをより美しくするために、動画で撮影して練習する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的にどんな練習をするかを考えて書くように促す。</li> <li>・これまでのほかの生徒の練習方法や振り返りを活用してもよいと伝える。</li> </ul>
Step2 30	4 技の習得を目指して練習をする。 ＜考えられる生徒の動き＞ ・見本ボードや実技本、動画で技のポイントやコツを調べている。 ・動画を撮って自分の動きを確認する。 ・教員に技の示範を依頼し、学習する。 ・教員に技の出来栄等のチェックを依頼する。 ・技の練習を何度もする。 ・傾斜を使って回転系の技を練習する。 ・壁倒立の練習をする。 ・補助をし合いながら練習をしている。	

Step3 10	5 本時と活動のまとめ、振り返りをする。	<div data-bbox="375 197 1401 362" style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 傾斜をつけて開脚前転をしたらうまくできた。しかし、傾斜をつけなかったらうまくできないので練習を頑張りたい。</li> <li>・ 動画を見てブリッジを美しくして評価を上げることができた。次は条件をかえてブリッジをやってみたい。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今日の練習の内容や今後やりたい技や練習について振り返らせる。</li> </ul>
-------------	----------------------	---

(6) 板書計画

**課題** <技を習得するためにどうすればよいか練習方法を考えよう>

**器械運動の技能評価**

**目標**

- ・ いろいろな技ができる
- ・ 技が美しくできる

**評価方法**

**難易度+美しさの合計 (変更の可能性あり)**

A: 40 点以上	B+: 33 点以上
B: 25 点以上	B-: 18 点以上
C: 18 点未満	

技が美しいとは…

- 滑らかに技ができる
- ひざなどが伸びている
- 動きが大きい
- しっかり静止している (巧技系)

# 1年3組 国語科 学習指導案

令和7年11月21日(木) 第6限

場所 1年3組教室

指導者 瀧本 アンナ

1 単元名 「今に生きる言葉」～あるある故事成語クイズを作ろう～

2 本時の学習

(1) 単元名 「今に生きる言葉」～あるある故事成語クイズを作ろう～

(2) ねらい

古典には様々な種類の作品があることを知ることができる。

(知識及び技能)

(3) 教科の見方・考え方を踏まえて子供に委ねる工夫

国語便覧の中から、クイズの題材となる故事成語を生徒に選ばせる。クイズを作成する際に参考とできる模範のスライドを生徒に配付し、いつでも見られるようにする。

(4) 準備

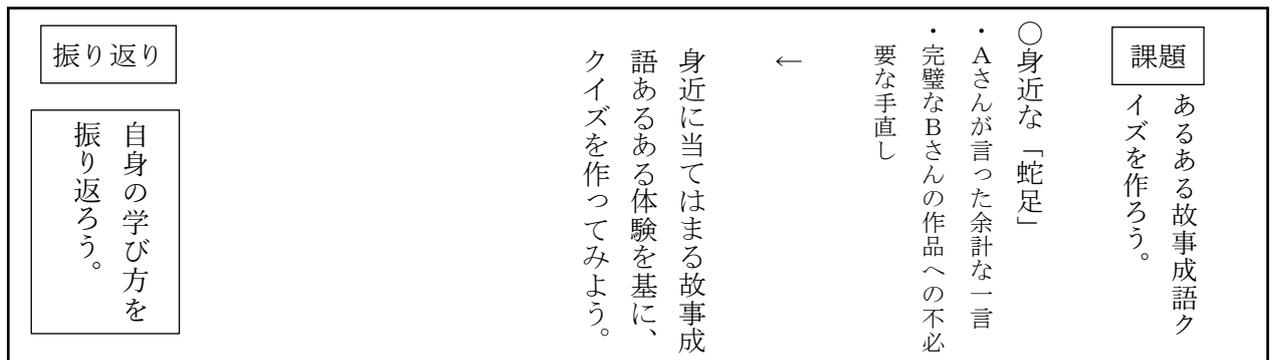
例を示したスライド、故事成語に関する図書

(5) 指導過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点(・)と評価(◎)
Step1 5	1 前時で調べた故事成語について想起する。 ・蛇足は、蛇の絵に足を描いて失敗した人の話が基になっていて、そこから「無駄なもの」という意味ができた。	・故事成語には様々なものがあることや、それぞれの基となった中国の故事があることを確認する。
	2 身の回りに蛇足であるものはあるか考える。 ・余計な一言がそうだ。 ・	・大昔の故事からできた言葉でも、現代の生活に当てはめ使われていることを確認する。
2	3 本時の課題をつかむ。	
	あるある故事成語クイズを作ろう。	
5	4 クイズの例をスライドで確認する。 ・故事成語に当てはまる日常の出来事を、四文にまとめるのだね。 ・正解の故事成語が選べるように選択肢を与えるのだね。 ・答えは故事成語のみではなく、基となった故事や、故事成語の意味、用例を載せればいいのだね。	・スライドで示す例は、生徒が選ばなさそうな故事成語に関するものにする。 ・実際に身の回りで起こりそうなことを、起承転結の構成で書き示すよう促す。
Step2 3 3	5 クイズを作成する。 ・勉強をしていると初めは頑張るけれど、後から勉強のペースが落ちることがある。竜頭蛇尾という言葉の意味に当てはまる。 ・以前怪我をしたことがあるけれど、しっかり治すことでより強い骨になり以前より体が丈夫になった。人間万時塞翁が馬だ。	・クイズは1人で作成するが、他の生徒に協力を仰ぐ際には「アドバイザー」としてスライドに名前を載せさせる。 ・国語便覧に載っていないものを選びたい生徒のために、故事成語に関する図書も用意する。 ・クイズができた生徒には、国語便覧に載っていない故事成語でクイズを作る

Step3 5	<p>6 進捗状況を確認する。</p> <p>7 振り返りをする。</p>	<p>ことを提案する。</p> <p>◎古典には様々な種類の作品があることを知ることができる。…知識及び技能 (ク롬ブック、観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成途中、1問目完成、2問目に挑戦中、など、各自の取り組みを確認する。</li> <li>・クイズを作るための自分自身の学び方はどうだったかを振り返らせる。</li> </ul>
<p>以前、詩を書くときに、「～に」にしようか「～へ」にしようか悩みよりよくしようと考えた末、「～へ」の方が方向の意味合いが出て、文章に奥行きが出ると感じたことがあった。私が行ったのはまさに「推敲」で、そのときの体験を故事成語クイズに盛り込むことができた。</p>		

(6) 板書計画



## 2年2組 英語科(標準コース) 学習指導案

令和7年11月21日(金)第6限  
場 所 英語科教室  
指導者 梶元 桜児

### 1 単元名 Unit6 How can we make a good presentation?

#### 2 本時の学習

(1) 小単元名 Read and Think1

(2) ねらい

クラスの生徒とお互いのことをよりよく知るために、自分が知りたい身近なトピックについての調査を基に、調査結果について相手を意識して簡単な語句で発表している。

(思考力、判断力、表現力等)

(3) 教科の見方・考え方を踏まえて子供に委ねる工夫

事前に生徒に自分の興味のあることについてクラス内でアンケート調査を実施させる。調査結果を知らないクラスメートに対して、互いのことをより知るためにその結果を報告する場を設定する。アンケート調査結果について自分が思うことを内容に入れて相手に伝える。

(4) 準備

単元計画と振り返りを行うスプレッドシート、調査結果のフォーム、調査結果をまとめるドキュメント、ヒント用のプレゼン内容を載せたドキュメント

(5) 指導過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点(・)と評価(◎)
Step1 5	<p>1 事前に実施した先生の好きな食べ物アンケート調査結果を予測させる。 結果について、教師のプレゼンを聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ What kind of donuts do teachers at Takamatsu Junior High School like?</li> <li>・ They like donut A better than B.</li> <li>・ Which do they like better, donut A or C?</li> <li>・ Donut C is the third most popular.</li> <li>・ I' m glad that some people like my favorite donuts.</li> </ul> <p>2 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px auto; width: 80%;">How was the result of your survey?</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケート調査の内容を提示し、生徒に結果を予測させ、表現を復習する。</li> <li>・ 必要があればヒント動画を見られるようにしておく。</li> </ul>
Step2 10	<p>3 ペアを変えて自分のアンケート調査結果についてわかったことを伝え合い、聞き手は内容について質問したり、アドバイスをしたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 結果の言い方がわからない。</li> <li>・ 最初にどういう表現で始めればよいかわからない。</li> <li>・ 伝わるかどうか友達に見てもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5W1Hや比較表現のヒントカードを黒板に提示しておく。</li> <li>・ 必要があればデジタル教科書の内容を確認するように促す。</li> <li>・ うまくいっているところやうまくいっていないところを見取り、取り上げる場所があれば紹介する。</li> </ul>
25	<p>4 調査結果についてわかったことをドキュメントにまとめる。進捗状況をクロムブックに記録する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ more popular の表現もつかえるな。</li> <li>・ 自分が考えたことについて最後に付けるとまとまるな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別で考えさせる時間をとる。</li> <li>・ どのトピックを選んだのかについて振り返りシートに記入させ、必要があれば話し合いができるようにしておく。</li> <li>・ ドキュメントは生徒も教師も見られるようにしておく。</li> </ul>

<p>Step3 5</p>	<p>5 課題に対するまとめを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先（最後）にみんなの一番好きなものを紹介しよう。</li> <li>クロムブックで見取りを行い、中間評価を行う。</li> <li>必要なら、ヒント用ドキュメントや他の人の内容を参考にさせる。</li> <li>参考にした表現やつけ足した表現がわかるようにしておくことを伝える。</li> </ul>
<p>5</p>	<p>6 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>比較の仕方を友達と確認し合うことで、表現を確認することができた。</li> <li>最初の始め方がわからなかったので、教科書の内容を参考にして表現できた。</li> </ul>	<p>◎自分が知りたい身近なトピックについての調査を基に、調査結果について相手を意識して簡単な語句で発表している。 …思考・判断・表現（発表、観察）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題を達成できたかどうかや達成できなかったこと、課題に取り組む際の学び方を振り返らせ、次回への課題意識を持たせる。（スプレッドシート）</li> </ul>

I' d like to show you the result of our survey.  
 Do you like ice cream? 90% of our classmates like ice cream. I asked  
 “Yes” group “What is your favorite flavor?”  
15 of them like chocolate flavor the best.  
5 of them like chocolate mint flavor better than vanilla flavor.  
Chocolate flavor is the most popular of all.  
 It is a big surprise. (B 評価)

(6) 板書計画

How can we make a good presentation?

**課題** <How was the result of your survey?>

What			
When	…er than ~	more … than ~	like ~ better than ~
Where	the …est of(in) ~	the most … of(in) ~	like ~ the best of(in) ~
Who			
Why	<p>I' d like to show you the result of our survey.          Do you like ice cream? <u>90% of our classmates</u> like ice cream. I asked          “Yes” group “What is your favorite flavor?”  <u>15 of them</u> like chocolate flavor the best.  <u>5 of them</u> like <u>chocolate mint flavor</u> better than vanilla flavor.  <u>Chocolate flavor</u> is the most popular of all.</p>		
How			
<b>まとめ</b>	<p>It is a big surprise. (B 評価)</p>		

### 3年2組 社会科 学習指導案

令和7年11月21日（金）第6限  
場 所 3年2組教室  
指導者 山本 佳依

1 単元名 生産と労働

2 本時の学習

- (1) 小単元名 企業の種類
- (2) ねらい

身近な消費財・サービスから、生産の主体である企業の経済活動について理解することができる。 (知識及び技能)

- (3) 教科の見方・考え方を踏まえて子供に委ねる工夫  
誰がどのように生産しているのか子供達自身で気づくことができるように、自身の生活に根差した製品を取り上げ、考えたり話し合ったりする活動を取り入れる。

- (4) 準備  
授業プリント、授業の流れを示すためのスライド、学びの振り返り（フォーム）

(5) 指導過程

時間	学 習 活 動	指導上の留意点（・）と評価（◎）
Step1 3	1 宿題の確認と交流をする。 ・自分の記録を発信する。 ・この日は〇〇があったから、家族で△△を食べに行った。	・事前に1日の生活記録を取っておくよう指示しておく。 ・記録日の生活をなるべく細かく伝え合うよう指示する。
1	2 本時の課題を確認する。	・課題をプリントに書くよう指示する。
生活に必要なものは、どのように生産されているのだろう		
1	3 本時のゴールを確認する。	・ものが私たちの手元に届くまでの過程を考え、知る1時間にすることを伝える。
Step2 2	4 自分の記録から消費や購入したもの1つを選ぶ。 ・夕飯のカレーライスにしよう。 ・お母さんと行ったコンサートにしよう。	
15	5 選んだものを分析する。 ・意見交流しながら、選んだものがどんなものからできているのか考える。 ・(カレーライスなら) 肉、ジャガイモ、人参、カールゥ、火、水、…。 ・それぞれの要素が、「どこで」「どんな人によって」作られているのか書き出す。 ・自分たちの身近なものが色々な人の手によって作られていることを実感する。	・構成要素がなるべく多くなるよう、よく考えるように伝える。 ・他人からの意見も聞きながら、構成要素を考えるよう指示する。 ・他の人の選んだものについても丁寧に考えてアドバイスするよう伝える。

3	6 一人で全部作ろうとしたらどうか。 ・無理。できない。 ・たくさんの人と分担しながら、身の回りのものは作られている。	・「分業」、「交換」の語句を確認させる。
15	7 企業の生産活動を考える。 ・企業の立場に立って、生産に必要なものをリストアップする。 ・材料を買わないといけない。 ・工場を建てないといけない。 ・働いてくれる人がいないといけない。 ・作ったものをいくらで売るか考える。	・生産要素（労働力・土地・設備）を押さえる。 ・生産にかかった費用よりも高い値段をつけて売ることによって利潤を得ていることを押さえる。
Step3 5	8 学習内容をまとめる。 ・今日の活動を踏まえて、家計の経済活動とはどんなものなのか、自分の言葉で表現する。	・まとめは自分の言葉で作るよう伝える。 ◎生産に必要な要素を、考えながら表現している。…思考・判断・表現 (プリント、観察)
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;">         企業が資本で土地・労働力・設備を用意して生産し、生産したものをかかった費用よりも高い値段で売ることによって利潤を得ている。       </div>		
5	9 学び方の振り返りを行う。 ・フォームで送信する。	・フォームのある場所を伝える。 ・操作が難しい生徒を補助する。

(6) 板書計画

**課題** < 生活に必要なものは、どのように生産されているのだろう >

カレーライス . . . . . 生産に必要な要素 ⇒ いくらで売る？

↑      ↑      ↘

ルウ   人参   水

・工場

・労働者

・材料

売上 > 費用

まとめ

企業が資本で土地・労働力・設備を用意して生産し、生産したものをかかった費用よりも高い値段で売ることによって利潤を得ている。

Who?

Where?

## 3年3組 数学科 学習指導案

令和7年11月21日（金）第6限  
場 所 3年3組教室  
指導者 渡邊 聡

### 1 単元名 相似な図形

#### 2 単元の目標

- (1) 図形の相似についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。  
(知識及び技能)
- (2) 図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができる。  
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 図形の相似について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。  
(学びに向かう力、人間性等)

#### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解している。</li> <li>・相似な図形の辺の長さを、相似比を用いて求めることができる。</li> <li>・平行線と線分の比の性質を用いて線分の長さを求めることができる。</li> <li>・相似な平面図形の相似比と面積比の関係について理解している。</li> <li>・基本的な立体の相似の意味を理解し、相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の関係について理解している。</li> <li>・誤差、有効数字の意味を理解し、近似値を <math>a \times 10^n</math> の形に表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。</li> <li>・平行線と線分の比についての性質を見だし、それらを確かめることができる。</li> <li>・平行線と線分の比の性質などを利用して、図形の性質を考察することができる。</li> <li>・相似な図形の性質を具体的な場面で活用することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形の相似の意味や、相似な図形の相似比と面積比や体積比の関係を考えようとしている。</li> <li>・図形の相似について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</li> <li>・相似な図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。</li> </ul>

#### 4 指導にあたって

##### (1) 教材観

第2学年では、数学的な推論の過程に着目して、図形の合同に基づいて三角形や平行四辺形の基本的な性質を見だし、論理的に確かめ説明することを学習している。既習の図形の性質や関係を論理的に整理し、体系付け、組み立てていくうえで、合同と相似は重要な概念である。

第3学年では、三角形の相似条件などを用いて、図形の性質を論理的に確かめ、数学的な推論の必要性や意味及び方法の理解を深め、論理的に考察し表現する力を養う。そして、実生活の中で図形の性質を利用する場面を見だし、数学の実用性やよさについて実感できるようにする。さらに、基本的な立体についての相似の意味を理解し、相似な図形の性質を用いて図形の計量ができるようにする。本単元は、図形の性質が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明したり、統一的・発展的に捉えたりすることを通して、論理的に考察し表現する力を養うことができる教材である。

## (2) 生徒観

前期授業アンケートの結果から、「課題の解決に向けて、自ら主体的に取り組んでいる」生徒が約95%おり、授業に取り組む姿勢は前向きである。また、全体の場合での発言には躊躇する生徒もいるが、前期授業アンケート「他の人の考えや意見を自分の学びに生かしている」の肯定的回答が約91%で、授業の中で他者と交流する場面では積極的にかかわろうとする様子がよく見られた。ただし、相手が固定化しているため、学びを深めるための交流となっていない場面もある。

また、第2学年の図形の学習では、意欲的に取り組む生徒が多かった。図形が合同であることを証明する学習では、合同であることを示すために何がいえればよいかを事前に考え、その方針に基づいて証明をすることを繰り返し指導してきたため、証明をすることへの苦手意識をもっている生徒は減少した。今年度の全国学力・学習状況調査<sup>9</sup>(2)(3)の正答率が県平均を上回っていたことから、証明することや、条件を変えた場合について証明を評価・改善することについては一定の成果が出たと考えられる。一方、<sup>9</sup>(1)については県平均を下回っており、問題解決の過程を振り返って新たな性質を見いだすことに課題が見られた。

## (3) 指導観

本単元は、第2学年の「図形の合同」と密接な関係がある。合同と相似の違いを確認しながら、まずは三角形の相似条件の定着を図りたい。そして、三角形の相似条件を基に図形の性質を証明し、三角形と比などの定理を導いていく。その際、根拠や補助線をひく目的などを明確にしながら論理的に考察できるよう、図やICTを活用する。根拠を図示しながら互いに説明し合うことで理解を深め、表現力を高めていきたい。さらに、証明を振り返って新たな性質を見いだしたり、条件を変えた場合について検討したりする活動を取り入れ、統合的・発展的に考察していく。相似比と面積比、体積比については、実生活と結び付け、具体的な場面で帰納的に考えることで理解を深め、相似を利用できるようにしていきたい。

3学年では、証明を書くことを含め、論理的な考察を簡潔・明瞭に表現できるようにすることが重視されている。一斉で確認する場面においては、誤答や不十分な考えを取り上げ、生徒の発言をつなぎながらよりよい表現へと高めていくことで、論理的に考察し表現する力を養いたい。また、高中スタイルの自分で学び進める場面においては、生徒が対話によって理解を深めたり、よりよい表現へと高めたりできるようにしていきたい。そのために、一人一人の学習状況を見取り、目的に応じて生徒をつないだり、問い返したりするなど働き掛けていく。また、生徒が必要に応じて既習を振り返ったり、他者参照したりしながら学び進められるよう、ICTを活用した学習環境の充実にも努め、単元を通して、一人一人が論理的に考察し、よりよい表現へと高めていこうとする姿勢を養っていきたい。

4 単元の指導・評価計画（総時数 26 時間）（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

時	主な学習活動	知	思	態	評価規準
1	タブレット上での2本の指の操作によって、図形がどのように拡大されているかを調べる。		●	●	図形のある点を中心に拡大する方法や拡大してできる図形の特徴を見だし、説明することができる。（行動観察） 平面図形の相似の意味を考えようとしている。（行動観察、振り返りシート）
2	相似の意味と相似な図形の性質を理解し、相似比を求める。	●			相似な図形の性質や相似比の意味を理解し、相似比を求めることができる。（行動観察、ノート）
3	相似の位置にあることの意味を理解し、ある図形と相似の位置にある図形をかく。	●			相似の位置にあることの意味を理解し、ある図形と相似の位置にある図形をかくことができる。（行動観察、ノート）
4	相似な図形の辺の長さを求める。	●			相似な図形の辺の長さを、対応する辺の比やとなり合う辺の比が等しいことを使って求めることができる。（行動観察、ノート）
5	三角形の相似条件を考える。		●		三角形の相似条件を、三角形の合同条件をもとにして考え、説明することができる。（観察、ワークシート）
6	2つの三角形が相似かどうかを、三角形の相似条件を使って判断する。	●		●	三角形の相似条件を利用して、2つの三角形が相似かどうかを判断することができる。（ノート） 三角形の相似条件を学習に生かそうとしている。（行動観察、振り返りシート）
7	三角形の相似条件を利用して相似であることを証明する。		●		三角形の相似条件を利用して、図形の性質を証明することができる。（行動観察、ノート）
8	直接には測定できない距離や高さを、縮図を利用して求める。		●		相似な図形の性質を具体的な場面で活用することができる。（行動観察）
9	誤差や有効数字の意味を理解し、測定値を $a \times 10^n$ の形に表す。	●			誤差の意味や有効数字の意味を理解し、測定値を $a \times 10^n$ の形に表すことができる。（行動観察、ノート）
10	基本の問題に取り組む。	○		●	基本的な問題を解決することができる。（行動観察、ノート） 図形の相似について学んだことを学習に生かそうとしている。（行動観察、振り返りシート）
11	ノートの罫線を利用して3等分できる理由を考える。		●	●	相似な図形の性質を具体的な場面で活用することができる。（ノート） 図形の相似について学んだことを生活に生かそうとしている。（行動観察）
12	三角形と比の定理を証明し、それを利用して線分の長さを求める。	●			三角形と比の定理を利用して、線分の長さを求めることができる。（行動観察、ノート）
13	三角形と比の定理の逆を証明し、それを利用して2つの線分が平行かどうかを考える。	●			三角形と比の定理の逆を利用して、2つの線分が平行かどうかを判断することができる。（行動観察、ノート）
14	中点連結定理を見だし、説明する。		●		中点連結定理を、相似な図形の性質や三角形と比の定理とその逆をもとにして見だし、説明することができる。（行動観察、ワークシート）
15	中点連結定理を利用して、図形の性質を証明する。		●	●	中点連結定理を利用して、図形の性質を証明することができる。（行動観察、ノート） 相似な図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。（振り返りシート）
16	平行線と比の定理を見だし、説明する。			○	平行線と比の定理を、三角形と比の定理をもとにして見だし、説明することができる。（行動観察、ワークシート）
17	平行線と比の定理を利用して線分の長さを求める。	●			平行線と比の定理を利用して線分の長さを求めることができる。（行動観察、ノート）
18	平行線と比の定理を利用して、図形の性質を証明する。			○	平行線と比の定理を利用して、図形の性質を証明することができる。（行動観察、ワークシート）

19	基本の問題に取り組む。	○			基本的な問題を解決することができる。(行動観察、ノート)
20	相似な三角形について、相似比と面積比の関係を調べる。		●	●	相似な平面図形の相似比と面積比の関係を見だし、説明することができる。(行動観察、ノート) 相似な平面図形の相似比と面積比の関係を考えようとしている。(行動観察、振り返りシート)
21	相似な図形の相似比と面積比の関係を調べる。	●			相似な平面図形の相似比と面積比の関係を理解している。(行動観察、ノート)
22	相似な平面図形の相似比と面積比の関係を利用して、具体的な問題を考える。		●		身のまわりにあるものを図形とみなして、相似な平面図形の相似比と面積比の関係を利用して問題を解決することができる。(行動観察、ノート)
23	立体の相似の意味を知り、相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の関係を考える。	●			立体の相似の意味及び相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の関係を理解している。(行動観察、ノート)
24	相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の関係を利用して、具体的な問題を考える。		○		身のまわりにあるものを立体とみなして、相似な立体の相似比と体積比の関係を利用して問題を解決することができる。(行動観察、ノート)
25	基本の問題に取り組む。	○		○	基本的な問題を解決することができる。(行動観察、ノート) 単元の学習を振り返り、学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。(行動観察、振り返りシート)
26	章の問題に取り組む。	○	○		基礎的な概念や定理等を理解し、数学的に表現・処理することができる。また、図形の性質や計量について論理的に考察し表現している。(行動観察、ノート)

5 本時の学習 (18 / 26)

(1) 小単元名 平行線と比

(2) ねらい

相似な図形の性質や平行線と線分の比の性質を利用して、三角形の角の二等分線の性質を証明できる。  
(思考力、判断力、表現力等)

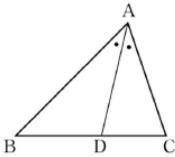
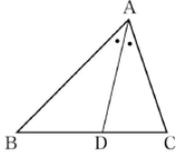
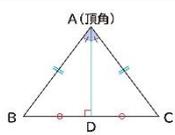
(3) 教科の見方・考え方を踏まえて子供に委ねる工夫

学びの足跡を端末に蓄積しておくことで、生徒が既習事項をいつでも振り返り、活用しながら考えられるようにする。その中に思考の手掛かりとなる2種類の型(アポロ型、砂時計型)を示しておく。また、オクリンクプラスを活用して補助線等をかきこんだ図を共有し、生徒が考える際の手掛かりとしたり、交流相手を選ぶ参考としたりすることができるようにする。

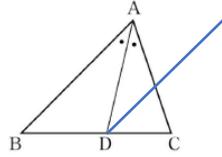
(4) 準備

ワークシート、クロムブック

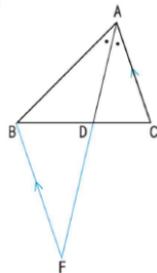
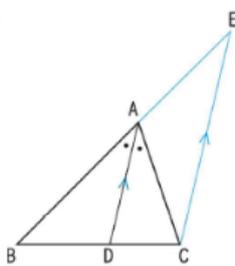
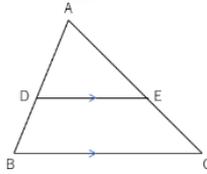
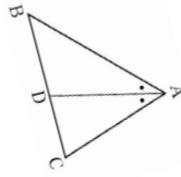
(5) 指導過程

時間	学習活動	指導上の留意点(・)と評価(◎)
Step1 5	<p>1 二等辺三角形の頂角の二等分線の性質をもとに、三角形の角の二等分線の性質を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>二等辺三角形のとき、頂角の二等分線は底辺を2等分していたな。</li> <li>他の三角形の場合はどうなるんだろう。</li> <li>線分の長さを測ったら、<math>AB : AC = BD : DC</math> になった。</li> <li>友達の三角形も <math>AB : AC = BD : DC</math> になったから、どんな三角形でも <math>AB : AC = BD : DC</math> になるといえそうだ。</li> </ul>  <p>2 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">             三角形の角の二等分線の性質はどう証明できるだろう？         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">  <p>問 <math>\triangle ABC</math> の <math>\angle A</math> の二等分線と辺 <math>BC</math> との交点を <math>D</math> とすると、<math>AB : AC = BD : DC</math> となります。このことを証明しなさい。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までの学習(図形の性質や平行線と比の定理の証明)を振り返り、補助線をひくことで証明できたことを確認する。</li> <li>二等辺三角形の頂角の二等分線の性質を確認し、本時の学びにつなげる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  <p>二等辺三角形の頂角の二等分線は底辺を垂直に2等分する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>何種類かの三角形を配り、実際に測った結果を比較することで、角の二等分線の性質を予想できるようにする。</li> </ul>
Step2 31	<p>3 証明する方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どうやって証明したらいいんだろう。</li> <li>線分の比が等しいことの証明なら相似な図形の性質が使えるそう。</li> <li>三角形と比の定理も使えるそう。</li> <li>でも、相似な三角形が見つからない。</li> <li>アポロ型や砂時計型があれば証明できるかもしれないな。</li> <li>図形の性質を証明したり、線分の長さを求めたりするときに、補助線をひいていたよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間の学習のまとめのスライドを端末に蓄積しておき、生徒が必要に応じて既習を想起できるようにする。</li> <li>証明の手掛かりをつかめない生徒には、線分の比が等しいことをいうためにどんな方法があったかを、スライドを見ながら振り返るよう促す。</li> </ul>

- 今回も補助線をひいたら証明できるんじゃないかな。
- どう補助線をひけばよいかわからない。
- 相似な三角形を見つけたときも線分の比を考えたときも、平行線がポイントになっていたよ。平行線をひいてみたらどうかかな。
- 点Dを通り、ABに平行な直線をひいてみたけれど、相似な三角形が見つからない。
- どんな補助線をひいたらAB、AC、BD、DCが含まれるような図形を見つけられるだろう。

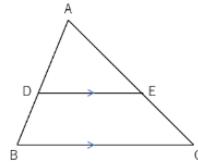


- 図形の向きを変えて考えてみたら、アポロ型になりそうだ。
- アポロ型の線分EC、BCにあたる補助線をひけばよさそうだよ。
- 砂時計型だったら、線分ADを点Dの方向に延長して、点Bを通り、線分ACに平行な線をひけばできた。

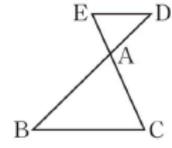


- アポロ型は、 $BA : AE = BD : DC$ がいえそう。
- 砂時計型だと、 $FB : AC = DB : DC$ がいえそう。
- ここから結論に行くにはどうすればいいのかな。
- アポロ型の場合、 $AD \parallel EC$ から錯角、同位角が等しいから、 $\angle BAD = \angle AEC$ 、 $\angle DAC = \angle ACE$  仮定から、 $\angle BAD = \angle DAC$  だから、 $\angle AEC = \angle ACE$ がいえるから  $\triangle ACE$ は二等辺三角形だと分かる。
- つまり、 $AC = AE$ が成り立つんだね。
- $BA : AE = BD : DC$ より、 $AB : AC = BD : DC$ が証明できた。

- 補助線をひく際の手掛かりになるよう、以下の2種類の型をスライドに載せておく。



アポロ型



砂時計型

- 結論にたどり着くことが難しい補助線をひいている生徒には、それで結論を導くことができるかを問い、再思考を促す。
- 思考したり交流相手を見つけたりする手掛かりとなるよう、補助線をかきこんだり、等しい線分や角に印をつけたりの図をオクリンクプラスで共有する。
- どの型を手掛かりとして証明を進めているかを見取り、同じ型を基に思考している生徒同士をつなぐことで、生徒が対話をしながら考えを深められるようにする。

- 補助線をひくことで新たに分かった性質を図にかきこむよう促し、アポロ型の $\triangle ACE$ と砂時計型の $\triangle BFA$ が二等辺三角形であることに気づけるようにする。
- 他者との対話によって理解を深めたり、問い返して根拠を明確にしたりすることで、証明を書き進められるようにする。
- 証明ができた生徒には、他の生徒の証明と比較しながらよりよい表現となるよう改善したり、他の方法でも証明できないか考えたりするよう促す。

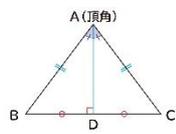
◎三角形の角の二等分線の性質を相似な図形の性質や三角形と比の定理を利用して証明している。

…思考・判断・表現  
(行動観察、ワークシート)

Step3 7	4 課題に対するまとめを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助線のひき方や使う型が異なっても既習の性質を活用することで証明できることに気づけるよう、数名の証明を共有する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>(例) 三角形の角の二等分線の性質は、補助線をひき、相似な三角形の性質や三角形と比の定理を利用することで証明できる。</p> </div>
5	5 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>次時の学びに活かすために、学び方と学んだことを振り返る。</li> </ul>

(6) 板書計画

**課題** <三角形の角の二等分線の性質はどう証明できるだろう？>

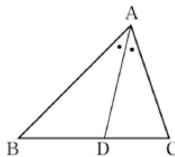


二等辺三角形の頂角の二等分線は底辺を垂直に二等分する。

問  $\triangle ABC$  の  $\angle A$  の二等分線と辺  $BC$  の交点を  $D$  とすると

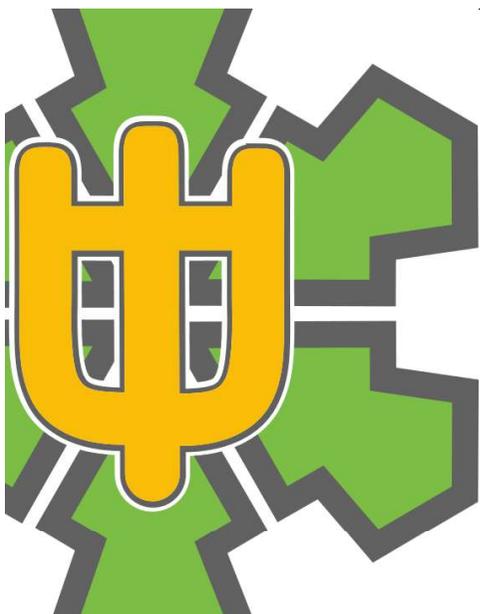
$AB : AC = BD : DC$  となります。

このことを証明しなさい。



まとめ

三角形の角の二等分線の性質は、補助線をひき、相似な三角形の性質や三角形と比の定理を利用することで証明できる。



# 令和の 日本型学校教育の 具現化に向けた 実証研究 研究発表会

かほく市立高松中学校

## はじめに

### かほく市立高松中学校



#### 学校教育目標

知性と想像力に富み 心身ともに  
健康で たくましい生徒の育成

#### 生徒数 特別支援学級2クラスを含む

1年生	91人	3クラス
2年生	85人	3クラス
3年生	81人	3クラス
計	260人	

### これからの時代を生きる子供たちに必要な力



## 自ら学び続ける力

## 発信する力

## 目指す生徒像



課題に対して、  
主体的に粘り強く  
学習を進めている生徒

自分で判断してほかの生徒  
と意見交換するなどして、  
自分たちで学びを深めてい  
く生徒

## 県の「学力向上に向けた授業づくり」を受けて

生きていく上での課題解決に迫る学び方

自己の学びを俯瞰して、学びの連続性や、  
現在地を自覚できる見通しを持つ力

他者との関わりの中で、学びを自己調整する力

## 県の「学力向上に向けた授業づくり」を受けて

生きていく上での課題解決に迫る学び方

自己の学びを俯瞰して、学びの連続性や、  
現在地を自覚できる見通しを持つ力

他者との関わりの中で、学びを自己調整する力

▶ **子供に学びを委ねる授業**

## 昨年度（1年目）の研究



共通実践

選択する場面のある  
授業

自ら学びを進める力を育成するために、生徒が学び方等を選択する  
場面を設定する  
(①目標 ②時間 ③方法  
④学習形態 ⑤道具⑥問題)

## 本年度（2年目）の研究



研究主題

### 自ら学び 高め合う生徒の育成

～「個別最適な学び」と  
「協働的な学び」の  
一体的な充実を通して～

# 高中スタイル

## 高中スタイル 令和7年度授業モデル



子供が**自ら学ぶ**授業

**協働**によって学びを深める授業

活動の**見通しを持たせる**工夫

子供が**自分の判断で活動**できる時間を十分に確保

**学び方**についての振り返り

教師は学びの様子を**見取り、支援**

## 高中スタイル 令和7年度授業モデル

生徒が教科の見方・考え方を働かせる活動になるように、思考を想定し、準備する

STEP1 最初の7分で今日の課題解決の見通しを持たせる

STEP2 生徒の活動を見取り、協働的な学びにつながるよう  
ファシリテートする  
全体指導は最低限(安全面の確保、必要に応じて)  
生徒の学習をリアルタイムで評価し、学習の方向性を確認する

STEP3 まとめの後、最後の5分で、必ず「学び方についての振り返り」  
を書かせる

## 高中スタイル 令和7年度授業モデル

### ポイント

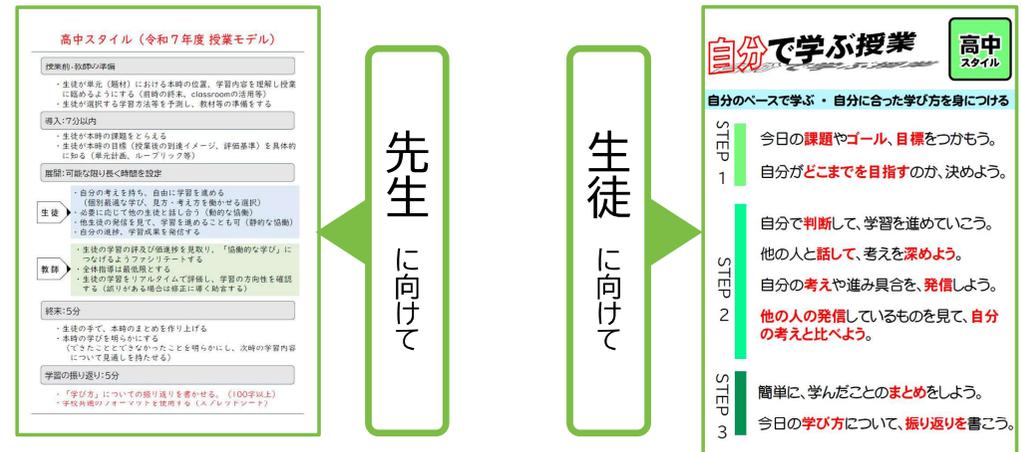
本時の授業について見通しを持つ

STEP2で、課題解決につながるような学び方を、生徒が自己決定する。

課題について、生徒の言葉でまとめる  
(1単位時間で課題に対してまとめられない場合は、本時の授業での到達点を確認する)

ICTを活用した「学び方についての振り返り」をする

## 高中スタイル 令和7年度授業モデル



## 高中スタイル 令和7年度授業モデル



「資質・能力の育成」に基づいた高中スタイルの授業を構成するために

指導案に「教科の見方・考え方を踏まえて子供に委ねる工夫」を明記した。  
校内研修において、全教科で指導主事を要請して研究授業を行った。  
指導案作成の段階からアドバイスをいただいた。

## 高中スタイル 令和7年度授業モデル



高中スタイルの授業をよりよくするために

4 研究部会を新たに設置  
(全教員が所属)

## 高中スタイル 令和7年度授業モデル

学校教育の経緯	本格的・体系的で深い学びの経緯	本物の学び	学習	授業では、授業を進めるのは、先生ではない。自己決定に委ねられた学習
		探究の学び	内発的な探究	授業では、自分の興味や関心に基づいて、
			課題的集中	授業では、挑戦と失敗を繰り返しながら、
		個別の学び	個性化した学習	授業では、学習の方法やペースを自分で選
			個別化した指導	授業中、分からないことがあれば、先生の
		協同の学び	内発的な協同	授業では、自分が必要な時に、必要な仲間
			協同の活用	授業では、他人の考えや意見を自分の学
		民主的な学校生活	民主的な学校づくり	学校のみならずに関わることは、自分たちで
			民主的な学校づくり	学校生活で誰かが疑問に思ったことは、全て
		成長への意欲	学びの動機	内発的動機

「自ら学び続ける力」の定着状況を評価するために

学校アンケートの項目の大幅な改定  
参考：ScTN質問紙

一般社団法人School Transformation Networking (ScTN) のHPより

# 高中スタイルをよりよくするために

## 4 研究部会の設置

### A.学習評価（教師の見取りを含む）の分析、検証 研究部

アンケート結果や振り返りについての分析

### B.人間関係づくり（学習指導と生徒指導の一体化）研究部

協働的に学べる人間関係 教師と生徒の人間関係づくり

### C.基礎学力の向上 研究部

見通しをもった学習 小テストによる学習刺激

### D.カリキュラム・マネジメントの推進 研究部

カリ・マネマップの作成と評価・改善

## A.学習評価（教師の見取りを含む）の分析、検証 研究部

173 した。なぜなら、水にとかすと透明になり、加熱しても燃えなかった（こげなかった）し、石灰水が白くにごらなかつたからです。次は他のxの正体を調べたいです。

180 M 実験を一通り終わらせることはできたけど、全然進めることができなかったし、グループの人に迷惑をかけたのでちょっと教科書とかを見てやり方を復習したいと思っています。K もっと実験をスムーズにするためにもっとコミュニケーションをとることが大切だと気づきました。T 実験結果をしっかりと考察することはよくできました。これはどの学習でも続けられるようにしたいと思います。

243 Mちゃんや砂糖や食塩、片栗粉の結果と見比べてやることのできたので良かったです。だけど自分の班の人がいない中で進めようとしたことが少しあったのでそこはみんながそろってやらやうにしたいです。K粉はすべて燃えたと感じていたけど食塩など燃えない粉があると知ってちょっとびっくりしました。なぜ燃えたりも燃えなかったりするのかわかりません。T 炭はしっかりと班のみんながそろってやらやうにしたいです。そしてそのやる單元のことに少しだけ調べたり予習したりして基礎知識を身につけることをしたいです。

190 今日は、ガスを使って、塩や、砂糖、かたくり粉を調べてみて、塩は、ちょっとだけにごり、砂糖もちょっとだけにごって、かたくり粉だけ、ごくにごりました。謎の粉/糖では、顕微鏡を使って、つぶつぶとした、小さく細かな粒の正体だったので、かたくり粉とわかりました。ガスを使って謎の粉/糖を調べてみたいけど、勝手に謎の粉の正体がわかってしまった。次、やるとしたら、ガスを使って調べてみたいと思えました。

106 僕は今日謎の物質の正体を顕微鏡で調べて、四色く丸みがあったので、謎の粉/糖が片栗粉だとわかったので良かったです。今日は顕微鏡を使って実験をしたので次やるとしたら、ガスを使って謎の粉を調べてみたいと思いました。

100 ガスバーナーで塩や砂糖そしてかたくり粉を調べてみると、塩は、にごってなくて、砂糖はにごって、かたくり粉もにごっていました。かたくり粉はやいたら煙が多く出たので本当なのか確かめてみたいと思いました。

205 試験管と顕微鏡を使って調べて、「食塩」「砂糖」「かたくり粉」の3つの顕微鏡で見た形や、水に溶かすかどうかなどの特徴を見つけたので良かったです。顕微鏡を使って、食塩と砂糖を見ると、假っていたけど、砂糖のほうが仮のような感じで、食塩のほうが少し、透明な感じがわかったし、かたくり粉を顕微鏡で見て、小さい丸のようなものが3つくらいいて、透明ではなく白色というのを実験をして、初めて知るところになりました。

生徒の書いた振り返り

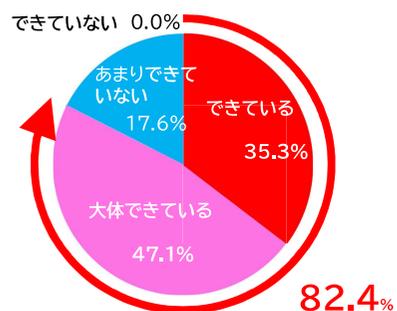
振り返りから、教師の伴走者としての成果について分析

アンケート結果などから、自ら学びを進める力がついていないかを検証

自己調整力が育成されているかを、振り返りの内容から検証



## 教員アンケートより



「高中スタイル」の授業などを通して、主体的に学ぶ生徒を育成する指導をしている

肯定的回答 82.4%



生徒が教科の見方・考え方を働かせながら学び方を調整することができるように指導している

肯定的回答 94.4%

## 教員アンケートより

「高中スタイル」の授業などを通して、主体的に学ぶ生徒を育成する指導をしている

肯定的回答 82.4%

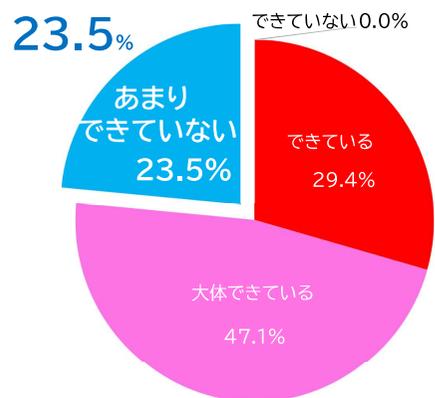
生徒が教科の見方・考え方を働かせながら学び方を調整することができるように指導している

肯定的回答 94.4%



主体的な学びに対する指導の意識が高まっている

## 教員アンケートより



子供に学び方を委ねた「高中スタイル」の授業づくりを意識している

あまりできていない 23.5%

## 教員アンケートより

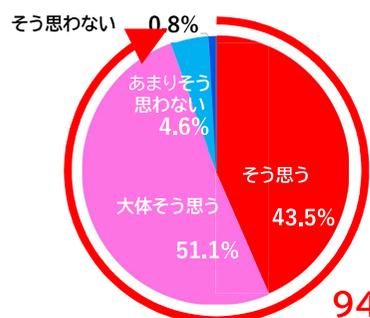
子供に学び方を委ねた「高中スタイル」の授業づくりを意識している

あまりできていない 23.5%



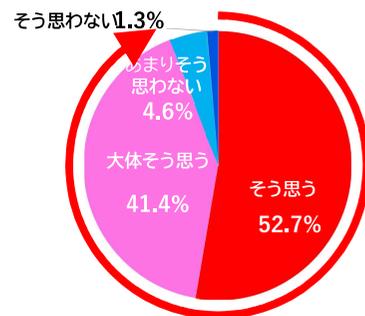
「子供に委ねる」ことに対して  
まだ不安や難しさがある

## 生徒アンケートより



94.6%

授業では、他の人の考えや意見を自分の学びに生かしている  
肯定的回答 94.6%



授業では、自分が困ったときに、仲間に助けを求めている  
肯定的回答 94.1%

## 生徒アンケートより

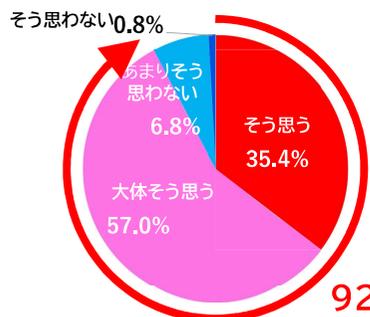
授業では、他の人の考えや意見を自分の学びに生かしている  
肯定的回答 94.6%

授業では、自分が困ったときに、仲間に助けを求めている  
肯定的回答 94.1%



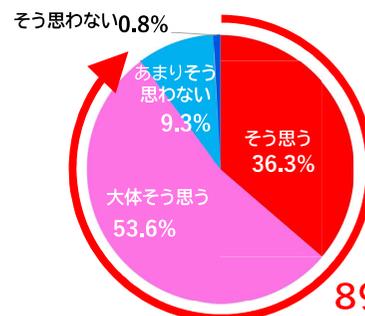
生徒間に安心して学習する土台ができており、協働的な学習を進める上で強みとなっている

## 生徒アンケートより



92.4%

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う  
肯定的回答 92.4%



89.9%

授業では、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学んでいる  
肯定的回答 89.9%

## 生徒アンケートより

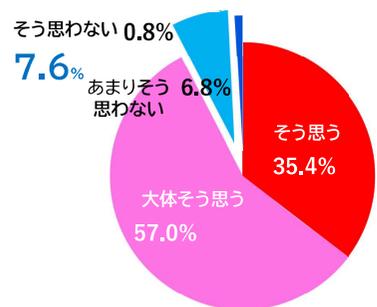
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う  
肯定的回答 92.4%

授業では、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学んでいる  
肯定的回答 89.9%

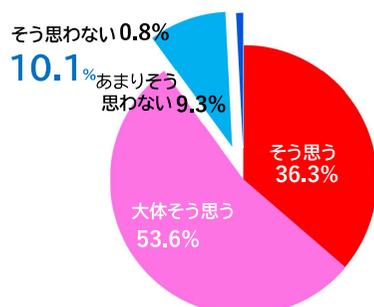


高中スタイルを続けることで、普段の授業についても、自ら学びを進めることへの意識が高まってきている

## 生徒アンケートより



授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う  
否定的回答 7.6%



授業では、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学んでいる  
否定的回答 10.1%

## 生徒アンケートより

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う  
否定的回答 7.6%

授業では、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学んでいる  
否定的回答 10.1%



自分で考え行動する力を十分に育成できていない生徒もあり、さらなる支援が必要である。

## 検証結果から見た成果

主体的な学びに対する指導の意識が高まっている

生徒間に安心して学習する土台ができおり、協働的な学習を進める上で強みとなっている

高中スタイルを続けることで、普段の授業についても、自ら学びを進めることへの意識が高まってきている

## 検証結果から見た課題

「子供に委ねる」ことに対してまだ不安や難しさがある

自分で考え行動する力を十分に育成できていない生徒もあり、さらなる支援が必要である。

# 今後の取組

## 「高中スタイル」のさらなる推進

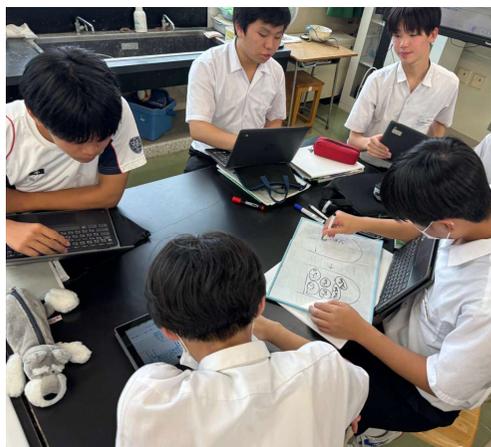


「子どもに委ねる」を意識した  
**授業実践の積み重ね**

**取組内容と生徒の現状の**  
分析・改善を継続  
(振り返りの分析など)

**生徒指導と学習指導の一体化を**  
更にすすめる  
(生徒同士・教師と生徒の  
人間関係づくり)

## 「自ら学び続ける生徒」を増やすために



より明確で取り組みやすく  
生徒が考えたくなる**課題設定**

細かな**見取り**と  
リアルタイムの**適切な支援**の工夫

**基礎学力の向上**による、  
考える土台となる力の育成

# 引き続き 子供に学びを委ねる授業 に、取り組めます



かほく市立高松中学校